

(様式第 10)

番 号  
令和 2 年 1 0 月 2 日

厚生労働大臣

殿

開設者名 学校法人 日本医科大学  
理事長 坂本 篤

日本医科大学付属病院の業務に関する報告について

標記について、医療法（昭和 23 年法律第 205 号）第 12 条の 3 第 1 項及び医療法施行規則（昭和 23 年厚生省令第 50 号）第 9 条の 2 の 2 の第 1 項の規定に基づき、令和元年度の業務に関して報告します。  
記

1 開設者の住所及び氏名

住 所	〒113-8602 東京都文京区千駄木1-1-5
氏 名	学校法人 日本医科大学

(注) 開設者が法人である場合は、「住所」欄には法人の主たる事務所の所在地を、「氏名」欄には法人の名称を記入すること。

2 名 称

日本医科大学付属病院
------------

3 所在の場所

〒113-8603 東京都文京区千駄木1-1-5  電話(03)3822-2131
--

4 診療科名

4-1 標榜する診療科名の区分

①医療法施行規則第六条の四第一項の規定に基づき、有すべき診療科名すべてを標榜 2 医療法施行規則第六条の四第四項の規定により読み替えられた同条第一項の規定に基づき、がん、循環器疾患等の疾患に関し、高度かつ専門的な医療を提供する特定機能病院として、十以上の診療科名を標榜
---

(注) 上記のいずれかを選択し、番号に○印を付けること。

4-2 標榜している診療科名

(1) 内科

内科	①	無	
内科と組み合わせた診療科名等			
① 呼吸器内科	② 消化器内科	③ 循環器内科	④ 腎臓内科
⑤ 神経内科	⑥ 血液内科	⑦ 内分泌内科	⑧ 代謝内科
9 感染症内科	⑩ アレルギー疾患内科またはアレルギー科	⑪ リウマチ科	
診療実績			

(注) 1 「内科と組み合わせた診療科名等」欄については、標榜している診療科名の番号に○印を付けること。

2 「診療実績」欄については、「内科と組み合わせた診療科名等」欄において、標榜していない診療科がある場合、その診療科で提供される医療を、他の診療科で提供している旨を記載すること。

(2) 外科

外科	④ ・ 無		
外科と組み合わせた診療科名			
① 呼吸器外科	② 消化器外科	③ 乳腺外科	4 心臓外科
5 血管外科	⑥ 心臓血管外科	⑦ 内分泌外科	8 小児外科
診療実績			

- (注) 1 「外科と組み合わせた診療科名」欄については、標榜している診療科名の番号に○印を付けること。  
2 「診療実績」欄については、「外科」「呼吸器外科」「消化器外科」「乳腺外科」「心臓外科」「血管外科」「心臓血管外科」「内分泌外科」「小児外科」のうち、標榜していない科がある場合は、他の標榜科での当該医療の提供実績を記載すること（「心臓血管外科」を標榜している場合は、「心臓外科」「血管外科」の両方の診療を提供しているとして差し支えないこと）。

(3) その他の標榜していることが求められる診療科名

① 精神科	② 小児科	③ 整形外科	④ 脳神経外科	⑤ 皮膚科	⑥ 泌尿器科	⑦ 産婦人科
8 産科	9 婦人科	⑩ 眼科	⑪ 耳鼻咽喉科	⑫ 放射線科	13 放射線診断科	
⑭ 放射線治療科	⑮ 麻酔科	⑯ 救急科				

- (注) 標榜している診療科名の番号に○印を付けること。

(4) 歯科

歯科	④ ・ 無
歯科と組み合わせた診療科名	
① 口腔科（周術期）	
歯科の診療体制	

- (注) 1 「歯科」欄及び「歯科と組み合わせた診療科名」欄については、標榜している診療科名の番号に○印を付けること。  
2 「歯科の診療体制」欄については、医療法施行規則第六条の四第五項の規定により、標榜している診療科名として「歯科」を含まない病院については記入すること。

(5) (1)～(4)以外でその他に標榜している診療科名

1 形成外科	2 漢方内科	3 病理診断科	4 リハビリテーション科
--------	--------	---------	--------------

- (注) 標榜している診療科名について記入すること。

5 病床数

精神	感染症	結核	療養	一般	合計
27床	床	床	床	850床	877床

6 医師、歯科医師、薬剤師、看護師及び准看護師、管理栄養士その他の従業者の員数

職 種	常 勤	非常勤	合 計	職 種	員 数	職 種	員 数
医 師	506 人	158 人	526.58人	看 護 補 助 者	82 人	診療エックス線技師	0 人
歯 科 医 師	2人	1人	2.06 人	理 学 療 法 士	15 人	臨床検査技師	107人
薬 剤 師	79 人	1人	79.05 人	作 業 療 法 士	6 人	衛生検査技師	0 人
保 健 師	人	人	人	視 能 訓 練 士	7 人	そ の 他	人
助 産 師	32人	0人	32 人	義 肢 装 具 士	0 人	あん摩マッサージ指圧師	0 人
看 護 師	1,108人	5人	1,110.96人	臨 床 工 学 士	33人	医療社会事業従事者	9 人
准 看 護 師	1人	1人	1.93 人	栄 養 士	2 人	その他の技術員	6人
歯 科 衛 生 士	2人	1人	2.05人	歯 科 技 工 士	0人	事 務 職 員	174人
管 理 栄 養 士	8人	0人	8 人	診 療 放 射 線 技 師	68人	そ の 他 の 職 員	33人

- (注) 1 報告書を提出する年度の10月1日現在の員数を記入すること。  
 2 栄養士の員数には、管理栄養士の員数は含めないで記入すること。  
 3 「合計」欄には、非常勤の者を当該病院の常勤の従事者の通常の勤務時間により常勤換算した員数と常勤の者の員数の合計を小数点以下2位を切り捨て、小数点以下1位まで算出して記入すること。それ以外の欄には、それぞれの員数の単純合計員数を記入すること。

7 専門の医師数

専門医名	人 数	専門医名	人 数
総合内科専門医	54 人	眼 科 専 門 医	9 人
外 科 専 門 医	40 人	耳 鼻 咽 喉 科 専 門 医	10 人
精 神 科 専 門 医	6 人	放 射 線 科 専 門 医	21 人
小 児 科 専 門 医	27 人	脳 神 経 外 科 専 門 医	5 人
皮 膚 科 専 門 医	6 人	整 形 外 科 専 門 医	12 人
泌 尿 器 科 専 門 医	10 人	麻 酔 科 専 門 医	15 人
産 婦 人 科 専 門 医	18 人	救 急 科 専 門 医	19 人
		合 計	252 人

- (注) 1 報告書を提出する年度の10月1日現在の員数を記入すること。  
 2 人数には、非常勤の者を当該病院の常勤の従事者の通常の勤務時間により常勤換算した員数と常勤の者の員数の合計を小数点以下1位を切り捨て、整数で算出して記入すること。

8 管理者の医療に係る安全管理の業務の経験

管理者名 ( 汲田 伸一郎 ) 任命年月日 平成29年2月1日

医療安全管理部部長、医療安全管理責任者、医療安全管理委員会委員長  
 平成26年4月1日から平成29年1月31日

9 前年度の平均の入院患者、外来患者及び調剤の数

歯科、矯正歯科、小児歯科及び歯科口腔外科の前年度の平均の入院患者及び外来患者の数

	歯科等以外	歯科等	合計
1日当たり平均入院患者数	749.4 人	0 人	749.4 人
1日当たり平均外来患者数	1,813 人	22 人	1,835 人
1日当たり平均調剤数			1583.1 剤
必要医師数			188.12人
必要歯科医師数			2人
必要薬剤師数			26人
必要(准)看護師数			446人

- (注)1 「歯科等」欄には、歯科、矯正歯科、小児歯科及び歯科口腔外科を受診した患者数を、「歯科等以外」欄にはそれ以外の診療料を受診した患者数を記入すること。
- 2 入院患者数は、前年度の各科別の入院患者延数(毎日の24時現在の在院患者数の合計)を暦日で除した数を記入すること。
- 3 外来患者数は、前年度の各科別の外来患者延数をそれぞれ病院の年間の実外来診療日数で除した数を記入すること。
- 4 調剤数は、前年度の入院及び外来別の調剤延数をそれぞれ暦日及び実外来診療日数で除した数を記入すること。
- 5 必要医師数、必要歯科医師数、必要薬剤師数及び必要(准)看護師数については、医療法施行規則第二十二條の二の算定式に基づき算出すること。

10 施設の構造設備

施設名	床面積	主要構造	設備概要			
			病床数	心電計	人工呼吸装置	心細動除去装置
集中治療室	4618.17 m <sup>2</sup>	鉄筋コンクリート	96 床	④・無	④・無	④・無
			④・無	④・無	ペースメーカー	④・無
無菌病室等	[固定式の場合] 床面積 192.558 m <sup>2</sup> [移動式の場合] 台数 台		病床数	11 床		
医薬品情報管理室	[専用室の場合] 床積 24.56 m <sup>2</sup> [共用室の場合] 共用する室名					
化学検査室	496.42m <sup>2</sup>	鉄筋コンクリート	(主な設備) 検体前処理分注機、免疫化学分析装置、血液凝固測定装置			
細菌検査室	175.85m <sup>2</sup>	鉄筋コンクリート	(主な設備) 血液培養装置、一般細菌同定感受性分析装置、安全キャビネット等			
病理検査室	468.77m <sup>2</sup>	鉄筋コンクリート	(主な設備) 安全キャビネット、凍結切片作成装置、低温フリーザー等			
病理解剖室	80.1m <sup>2</sup>	鉄筋コンクリート	(主な設備) 感染対策解剖台、遺体冷蔵庫、肉眼撮影装置等			
研究室	1,503.34m <sup>2</sup>	鉄筋コンクリート	(主な設備) 病理組織学標本作成装置、細胞培養装置、オートクレーブ等			
講義室	886.35m <sup>2</sup>	鉄筋コンクリート	室数 4 室	収容定員 620 人		
図書室	1,424.65m <sup>2</sup>	鉄筋コンクリート	室数 6 室	蔵書数 60,279冊程度		

- (注) 1 主要構造には、鉄筋コンクリート、簡易耐火、木造等の別を記入すること。
- 2 主な設備は、主たる医療機器、研究用機器、教育用機器を記入すること。

11 紹介率及び逆紹介率の前年度の平均値

紹介率	87.4%	逆紹介率	54.3 %
算出根拠	A：紹介患者の数		21,974 人
	B：他の病院又は診療所に紹介した患者の数		16,770 人
	C：救急用自動車によって搬入された患者の数		5,025 人
	D：初診の患者の数		30,899 人

(注) 1 「紹介率」欄は、A、Cの和をDで除した数に100を乗じて小数点以下第1位まで記入すること。

2 「逆紹介率」欄は、BをDで除した数に100を乗じて小数点以下第1位まで記入すること。

3 A、B、C、Dは、それぞれの前年度の延数を記入すること。

12 監査委員会の委員名簿及び委員の選定理由（注）

氏名	所属	委員長 (○を付す)	選定理由	利害関係	委員の要件 該当状況
長島 隆	東洋大学	○	利害関係のない学識経験者	有・ <del>無</del>	1
小泉 博明	文京学院大学		利害関係のない学識経験者	有・ <del>無</del>	1
豊田 郁子	NPO 法人「架け橋」		利害関係のない医療従事者以外の者	有・ <del>無</del>	2
近藤 幸尋	日本医科大学付属病院		副院長・泌尿器科部長	<del>有</del> ・無	3
				有・無	
				有・無	

(注) 「委員の要件該当状況」の欄は、次の1～3のいずれかを記載すること。

1. 医療に係る安全管理又は法律に関する識見を有する者その他の学識経験を有する者
2. 医療を受ける者その他の医療従事者以外の者（1.に掲げる者を除く。）
3. その他

13 監査委員会の委員名簿及び委員の選定理由の公表の状況

委員名簿の公表の有無	<del>有</del> ・無
委員の選定理由の公表の有無	<del>有</del> ・無
公表の方法	
学校法人のホームページにて公表	





(様式第2)

## 高度の医療の提供の実績

### 3 その他の高度の医療

医療技術名	ロボット支援下肺悪性腫瘍手術	取扱患者数	26人
当該医療技術の概要 内視鏡手術支援ロボット(daVinci Surgical system)を用いて肺悪性腫瘍手術を行う			
医療技術名	ロボット支援下縦隔腫瘍摘出術	取扱患者数	28人
当該医療技術の概要 内視鏡手術支援ロボット(daVinci Surgical system)を用いて縦隔腫瘍摘出手術を行う			
医療技術名	負荷アンモニア血流PET検査	取扱患者数	11人
当該医療技術の概要 冠動脈血流をアデノシン負荷前後で測定し、心筋虚血を定量的に評価することが可能で、特に冠動脈CT検査をFusionさせることにより川崎病冠動脈病変の多枝病変による虚血を正確に評価できる。			
医療技術名	冠動脈CT検査	取扱患者数	5人
当該医療技術の概要 これまで冠動脈造影に頼っていた冠動脈の形態評価を比較的低侵襲で行える検査で、特に負荷アンモニア血流PET検査をFusionさせることにより川崎病冠動脈病変の多枝病変による虚血を正確に評価できる。			
医療技術名	経腹的子宮頸管縫縮術	取扱患者数	10人
当該医療技術の概要 難治性の後期流産、早産既往の患者に対して経腹的子宮頸管縫縮術を行う			
医療技術名	補助循環用ポンプカテーテル	取扱患者数	22人
当該医療技術の概要 心原性ショック患者に対して、小型ポンプを左心室内に留置し、順行性の血流を増加させ、循環維持と左室負荷を軽減する。			
医療技術名	経カテーテル大動脈弁植え込み術	取扱患者数	37人
当該医療技術の概要 重度の大動脈弁狭窄症で、外科手術が困難とされていた方に対するカテーテルを用いた新しい治療法			
医療技術名	経皮的中隔心筋焼灼術	取扱患者数	20人
当該医療技術の概要 薬剤抵抗性の左室内圧較差を認める閉塞性肥大型心筋症に対する経カテーテル的治療法。			
医療技術名	低心機能症例における難治性心室性不整脈に対するカテーテルアブレーション	取扱患者数	3人
当該医療技術の概要 電氣的除細動抵抗性の致死性心室性不整脈Electrical Storm状態における緊急・準緊急カテーテルアブレーション			
医療技術名	超拡大内視鏡診断 Endocytoscopyを使った内視鏡診断	取扱患者数	100人
当該医療技術の概要 近年、内視鏡により生きた細胞や核を直接観察する超拡大観察が注目されるようになってきており、2018年遂に臨床使用に耐える超拡大内視鏡として上梓されることとなった。 ECSによる観察は核を染色して行われるため、染色可能なあらゆる臓器において細胞だけではなく核異型も捉えることが可能である。こうして得られた画像は、従来の顕微鏡下のHematoxylin-Eosin染色の水平像との相関が高く、現在のGold standardである生検材料の組織像に近似したoptical biopsyが実現できると期待されている。			



医療技術名	実臨床における3D内視鏡の早期胃癌診断能の検証	取扱患者数	28人
当該医療技術の概要			
<p>通常の内視鏡診療では、本来は3次元で構築されている消化管の情報を2次元で視覚化しているが、3D視覚化を可能とする軟性内視鏡(3D軟性内視鏡)が開発された。この3D軟性内視鏡を用いて、奥行き情報が加わることで、早期胃癌の範囲診断や肉眼型の認識が改善するか検討し、有効性を示す結果であった。</p>			
医療技術名	胃ESDにおける内視鏡的手縫い技術の応用	取扱患者数	10人
当該医療技術の概要			
<p>早期胃癌に対する内視鏡的粘膜下層剥離術(ESD)においては、術後の後出血や遅発性穿孔が問題となる。ESD後潰瘍に対して、ESD直後に軟性内視鏡用の持針器とバーブ付き外科用縫合糸を用いて、完全な縫縮を行い、後出血や遅発性穿孔の予防に有効な結果であった。</p>			

(注) 1 当該医療機関において高度の医療と判断するものが他にあれば、前年度の実績を記入すること。

(注) 2 医療法施行規則第六条の四第四項の規定に基づき、がん、循環器疾患等の疾患に関し、高度かつ専門的な医療を提供する特定機能病院として十以上の診療科名を標榜する病院については、他の医療機関での実施状況を含め、当該医療技術が極めて先駆的であることについて記入すること(当該医療が先進医療の場合についても記入すること)。

(様式第2)

## 高度の医療の提供の実績

## 4 指定難病についての診療

	疾患名	患者数		疾患名	患者数
1	球脊髄性筋萎縮症	2	56	ベーチェット病	63
2	筋萎縮性側索硬化症	7	57	特発性拡張型心筋症	53
3	脊髄性筋萎縮症	1	58	肥大型心筋症	65
4	原発性側索硬化症		59	拘束型心筋症	
5	進行性核上性麻痺	11	60	再生不良性貧血	35
6	パーキンソン病	124	61	自己免疫性溶血性貧血	3
7	大脳皮質基底核変性症	1	62	発作性夜間ヘモグロビン尿症	6
8	ハンチントン病		63	特発性血小板減少性紫斑病	56
9	神経有棘赤血球症		64	血栓性血小板減少性紫斑病	
10	シャルコー・マリー・トウス病	4	65	原発性免疫不全症候群	7
11	重症筋無力症	68	66	IgA腎症	32
12	先天性筋無力症候群		67	多発性嚢胞腎	37
13	多発性硬化症/視神経脊髄炎	55	68	黄色靑帯骨化症	1
14	慢性炎症性脱髄性多発神経炎/多巣性運動ニューロパチー	15	69	後縦靑帯骨化症	12
15	封入体筋炎	2	70	広範脊柱管狭窄症	4
16	クドウ・深瀬症候群		71	特発性大腿骨頭壊死症	17
17	多系統萎縮症	6	72	下垂体性ADH分泌異常症	20
18	脊髄小脳変性症(多系統萎縮症を除く。)	24	73	下垂体性TSH分泌亢進症	1
19	ライソゾーム病	3	74	下垂体性PRL分泌亢進症	25
20	副腎白質ジストロフィー		75	クッシング病	22
21	ミトコンドリア病	1	76	下垂体性ゴナドトロピン分泌亢進症	1
22	もやもや病	21	77	下垂体性成長ホルモン分泌亢進症	50
23	プリオン病		78	下垂体前葉機能低下症	174
24	亜急性硬化性全脳炎		79	家族性高コレステロール血症(ホモ接合体)	1
25	進行性多巣性白質脳症		80	甲状腺ホルモン不応症	
26	HTLV-1関連脊髄症		81	先天性副腎皮質酵素欠損症	3
27	特発性基底核石灰化症		82	先天性副腎低形成症	
28	全身性アミロイドーシス	9	83	アジソン病	
29	ウルリッヒ病		84	サルコイドーシス	79
30	遠位型ミオパチー		85	特発性間質性肺炎	39
31	ペスレムミオパチー	2	86	肺動脈性肺高血圧症	17
32	自己食空胞性ミオパチー		87	肺静脈閉塞症/肺毛細血管腫症	
33	シュワルツ・ヤンベル症候群		88	慢性血栓性肺高血圧症	3
34	神経線維腫症	28	89	リンパ管筋腫症	2
35	天疱瘡	9	90	網膜色素変性症	18
36	表皮水疱症		91	バッド・キアリ症候群	3
37	膿疱性乾癬(汎発型)	6	92	特発性門脈圧亢進症	4
38	スティーヴンス・ジョンソン症候群	1	93	原発性胆汁性肝硬変	44
39	中毒性表皮壊死症	2	94	原発性硬化性胆管炎	3
40	高安動脈炎	16	95	自己免疫性肝炎	23
41	巨細胞性動脈炎	6	96	クローン病	58
42	結節性多発動脈炎	7	97	潰瘍性大腸炎	156
43	顕微鏡的多発血管炎	19	98	好酸球性消化管疾患	2
44	多発血管炎性肉芽腫症	8	99	慢性特発性偽性腸閉塞症	1
45	好酸球性多発血管炎性肉芽腫症	19	100	巨大膀胱短小結腸腸管蠕動不全症	
46	悪性関節リウマチ	17	101	腸管神経節細胞僅少症	
47	バージャー病	13	102	ルビンシュタイン・ティビ症候群	
48	原発性抗リン脂質抗体症候群	1	103	CFC症候群	
49	全身性エリテマトーデス	121	104	コステロ症候群	
50	皮膚筋炎/多発性筋炎	94	105	チャージ症候群	
51	全身性強皮症	160	106	クリオピリン関連周期熱症候群	
52	混合性結合組織病	26	107	全身型若年性特発性関節炎	20
53	シェーグレン症候群	38	108	TNF受容体関連周期性症候群	
54	成人スチル病	11	109	非典型溶血性尿毒症症候群	
55	再発性多発軟骨炎	4	110	ブラウ症候群	

(様式第2)

## 高度の医療の提供の実績

## 4 指定難病についての診療

	疾患名	患者数		疾患名	患者数
111	先天性ミオパチー		161	家族性良性慢性天疱瘡	3
112	マリネスコ・シェーグレン症候群		162	類天疱瘡(後天性表皮水疱症を含む。)	17
113	筋ジストロフィー	4	163	特発性後天性全身性無汗症	
114	非ジストロフィー性ミオトニー症候群		164	眼皮膚白皮症	
115	遺伝性周期性四肢麻痺		165	肥厚性皮膚骨膜炎	
116	アトピー性脊髄炎		166	弾性線維性仮性黄色腫	
117	脊髄空洞症		167	マルファン症候群	3
118	脊髄髄膜瘤		168	エーラス・ダンロス症候群	11
119	アイザックス症候群		169	メンケス病	
120	遺伝性ジストニア		170	オクシビタル・ホーン症候群	
121	神経フェリチン症		171	ウィルソン病	1
122	脳表ヘモジデリン沈着症	1	172	低ホスファターゼ症	
123	禿頭と変形性脊椎症を伴う常染色体劣性白質脳症		173	VATER症候群	
124	皮質下梗塞と白質脳症を伴う常染色体優性脳動脈症	1	174	那須・ハコラ病	
125	神経軸索スフェロイド形成を伴う遺伝性びまん性白質脳症		175	ウィーバー症候群	
126	ペリー症候群		176	コフィン・ローリー症候群	
127	前頭側頭葉変性症		177	有馬症候群	
128	ピッカースタッフ脳幹脳炎		178	モワット・ウィルソン症候群	
129	痙攣重積型(二相性)急性脳症		179	ウィリアムズ症候群	
130	先天性無痛無汗症		180	ATR-X症候群	
131	アレキサンダー病		181	クルーゾン症候群	
132	先天性核上性球麻痺		182	アペール症候群	
133	メビウス症候群		183	ファイファー症候群	
134	中隔視神経形成異常症/ドモルシア症候群		184	アントレー・ピクスラー症候群	
135	アイカルディ症候群		185	コフィン・シリス症候群	
136	片側巨脳症		186	ロスムンド・トムソン症候群	
137	限局性皮質異形成		187	歌舞伎症候群	
138	神経細胞移動異常症		188	多脾症候群	
139	先天性大脳白質形成不全症		189	無脾症候群	
140	ドラベ症候群		190	鰓耳腎症候群	
141	海馬硬化を伴う内側側頭葉てんかん		191	ウェルナー症候群	
142	ミオクロニー欠神てんかん		192	コケイン症候群	
143	ミオクロニー脱力発作を伴うてんかん		193	ブラダー・ウィリ症候群	
144	レノックス・ガストー症候群		194	ソトス症候群	
145	ウエスト症候群		195	ヌーナン症候群	
146	大田原症候群		196	ヤング・シンブソン症候群	
147	早期ミオクロニー脳症		197	1p36欠失症候群	
148	遊走性焦点発作を伴う乳児てんかん		198	4p欠失症候群	
149	片側痙攣・片麻痺・てんかん症候群		199	5p欠失症候群	
150	環状20番染色体症候群		200	第14番染色体父親性ダイソミー症候群	
151	ラスムッセン脳炎		201	アンジェルマン症候群	
152	PCDH19関連症候群		202	スミス・マギニス症候群	
153	難治頻回部分発作重積型急性脳炎		203	22q11.2欠失症候群	
154	徐波睡眠期持続性棘徐波を示すてんかん性脳症		204	エマヌエル症候群	
155	ランドウ・クレフナー症候群		205	脆弱X症候群関連疾患	
156	レット症候群		206	脆弱X症候群	
157	スタージ・ウェーバー症候群		207	総動脈幹遺残症	
158	結節性硬化症	2	208	修正大血管転位症	2
159	色素性乾皮症		209	完全大血管転位症	
160	先天性魚鱗癬		210	単心室症	2

(様式第2)

## 高度の医療の提供の実績

## 4 指定難病についての診療

	疾患名	患者数		疾患名	患者数
211	左心低形成症候群		259	レシチンコレステロールアシルトランスフェラーゼ欠損症	
212	三尖弁閉鎖症	1	260	シトステロール血症	
213	心室中隔欠損を伴わない肺動脈閉鎖症		261	タンジール病	
214	心室中隔欠損を伴う肺動脈閉鎖症		262	原発性高カイロミクロン血症	3
215	ファロー四徴症		263	脳腫黄色腫症	
216	両大血管右室起始症		264	無βリポタンパク血症	
217	エプスタイン病		265	脂肪萎縮症	
218	アルポート症候群		266	家族性地中海熱	2
219	ギャロウェイ・モフト症候群		267	高IgD症候群	
220	急速進行性糸球体腎炎	1	268	中條・西村症候群	
221	抗糸球体基底膜腎炎		269	化膿性無菌性関節炎・壊疽性膿皮症・アクネ症候群	
222	一次性ネフローゼ症候群	55	270	慢性再発性多発性骨髄炎	
223	一次性膜性増殖性糸球体腎炎	1	271	強直性脊椎炎	8
224	紫斑病性腎炎	5	272	進行性骨化性線維異形成症	
225	先天性腎性尿崩症		273	肋骨異常を伴う先天性側弯症	
226	間質性膀胱炎(ハンナ型)		274	骨形成不全症	
227	オスラー病	2	275	タナトフォリック骨異形成症	
228	閉塞性細気管支炎		276	軟骨無形成症	
229	肺胞蛋白症(自己免疫性又は先天性)		277	リンパ管腫症/ゴーム病	
230	肺胞低換気症候群		278	巨大リンパ管奇形(頸部顔面病変)	
231	α1-アンチトリプシン欠乏症		279	巨大静脈奇形(頸部口咽頭びまん性病変)	
232	カーニー複合		280	巨大動静脈奇形(頸部顔面又は四肢病変)	
233	ウォルフラム症候群		281	クリッペル・トレノニー・ウェーバー症候群	2
234	ペルオキシソーム病(副腎白質ジストロフィーを除く。)		282	先天性赤血球形成異常性貧血	
235	副甲状腺機能低下症		283	後天性赤芽球癆	2
236	偽性副甲状腺機能低下症		284	ダイヤモンド・ブラックファン貧血	
237	副腎皮質刺激ホルモン不応症		285	ファンconi貧血	
238	ビタミンD抵抗性くる病/骨軟化症		286	遺伝性鉄芽球性貧血	
239	ビタミンD依存性くる病/骨軟化症		287	エプスタイン症候群	
240	フェニルケトン尿症		288	自己免疫性出血病XIII	2
241	高チロシン血症1型		289	クローンカイト・カナダ症候群	
242	高チロシン血症2型		290	非特異性多発性小腸潰瘍症	
243	高チロシン血症3型		291	ヒルシュスブルング病(全結腸型又は小腸)	
244	メープルシロップ尿症		292	総排泄腔外反症	
245	プロピオン酸血症		293	総排泄腔遺残	
246	メチルマロン酸血症		294	先天性横隔膜ヘルニア	
247	イソ吉草酸血症		295	乳幼児肝巨大血管腫	
248	グルコーストランスポーター1欠損症		296	胆道閉鎖症	
249	グルタル酸血症1型		297	アラジール症候群	
250	グルタル酸血症2型		298	遺伝性膵炎	
251	尿素サイクル異常症		299	嚢胞性線維症	
252	リジン尿性蛋白不耐症		300	IgG4関連疾患	10
253	先天性葉酸吸収不全		301	黄斑ジストロフィー	
254	ポルフィリン症		302	レーベル遺伝性視神経症	
255	複合カルボキシラーゼ欠損症		303	アッシュャー症候群	
256	筋型糖原病		304	若年発症型両側性感音難聴	
257	肝型糖原病		305	遅発性内リンパ水腫	1
258	ガラクトース-1-リン酸ウリジルトランスフェラーゼ欠損症		306	好酸球性副鼻腔炎	24

(様式第2)

高度の医療の提供の実績

4 指定難病についての診療

	疾患名	患者数		疾患名	患者数
307	カナパン病		319	セピアブテリン還元酵素(SR)欠損症	
308	進行性白質脳症		320	先天性グリコシルホスファチジルイノシトール(GPI)欠損症	
309	進行性ミオクローヌスてんかん		321	非ケトosis型高グリシン血症	
310	先天異常症候群		322	$\beta$ -ケトチオラーゼ欠損症	
311	先天性三尖弁狭窄症		323	芳香族L-アミノ酸脱炭酸酵素欠損症	
312	先天性僧帽弁狭窄症		324	メチルグルタコン酸尿症	
313	先天性肺静脈狭窄症		325	遺伝性自己炎症疾患	
314	左肺動脈右肺動脈起始症		326	大理石骨病	
315	ネイルパテラ症候群(爪膝蓋骨症候群)/L MX1B関連腎症		327	特発性血栓症(遺伝性血栓性素因によるものに限る。)	
316	カルニチン回路異常症		328	前眼部形成異常	
317	三頭酵素欠損症		329	無虹彩症	
318	シトリン欠損症		330	先天性気管狭窄症	

(注)「患者数」欄には、前年度の年間実患者数を記入すること。

(様式第2)

## 高度の医療の提供の実績

### 5 届出が受理されている診療報酬制度における施設基準等(基本診療科)

施設基準の種類	施設基準の種類
・ 救急医療管理加算	・ ハイリスク妊娠管理加算
・ 地域歯科診療支援病院歯科初診料	・ ハイリスク分娩管理加算
・ 歯科外来診療環境体制加算	・ 後発医薬品使用体制加算
・ 歯科診療特別対応連携加算	・ 病棟薬剤業務実施加算
・ 特定機能病院入院基本料	・ データ提出加算
・ 超急性期脳卒中加算	・ 入退院支援加算
・ 診療録管理体制加算	・ 認知症ケア加算
・ 医師事務作業補助体制加算	・ せん妄ハイリスク患者ケア加算
・ 急性期看護補助体制加算	・ 精神疾患診療体制加算
・ 看護職員夜間配置加算	・ 精神科急性期医師配置加算
・ 無菌治療室管理加算	・ 排尿自立支援加算
・ 緩和ケア診療加算	・ 地域医療体制確保加算
・ 精神科身体合併症管理加算	・ 救命救急入院料1
・ 精神科リエゾンチーム加算	・ 救命救急入院料4
・ 栄養サポートチーム加算	・ 特定集中治療室管理料
・ 医療安全対策加算	・ ハイケアユニット入院医療管理料
・ 感染防止対策加算	・ 新生児特定集中治療室管理料
・ 抗菌薬適正使用支援加算	・ 新生児治療回復室入院医療管理料
・ 患者サポート体制充実加算	・ 小児入院医療管理料
・ 褥瘡ハイリスク患者ケア加算	・ 短期滞在手術等基本料1

(様式第2)

## 高度の医療の提供の実績

### 6 届出が受理されている診療報酬制度における施設基準等(特掲診療科)

施設基準の種類	施設基準の種類
・ 外来栄養食事指導料	・ 排尿自立指導料
・ 遠隔モニタリング加算(ペースメーカー指導管理料)	・ ハイリスク妊産婦連携指導料1
・ 糖尿病合併症管理料	・ ハイリスク妊産婦連携指導料2
・ がん性疼痛緩和指導管理料	・ 肝炎インターフェロン治療計画料
・ がん患者指導管理料	・ 薬剤管理指導料
・ 外来緩和ケア管理料	・ 検査・画像情報提供加算及び電子的診療情報評価料
・ 糖尿病透析予防指導管理料	・ 医療機器安全管理料1
・ 小児運動器疾患指導管理料	・ 医療機器安全管理料2
・ 乳腺炎重症化予防・ケア指導料	・ 医療機器安全管理料(歯科)
・ 婦人科特定疾患治療管理料	・ 精神科退院時共同指導料
・ 院内トリアージ実施料	・ 総合医療管理加算(歯科疾患管理料)
・ 腎代替療法指導管理料	・ 歯科治療時医療管理料
・ 救急搬送看護体制加算	・ 在宅患者訪問看護・指導料及び同一建物居住者訪問看護・指導料の注2
・ 外来放射線照射診療料	・ 持続血糖測定器加算
・ ニコチン依存症管理料	・ 遺伝学的検査
・ がん治療連携計画策定料	・ 骨髄微小残存病変量測定

・ BRCA1/2遺伝子検査	・ 単線維筋電図
・ がんゲノムプロファイリング検査	・ 神経学的検査
・ 先天性代謝異常症検査	・ 補聴器適合検査
・ HPV核酸検出及びHPV核酸検出(簡易ジェノタイプ判定)	・ ロービジョン検査判断料
・ ウイルス・細菌核酸多項目同時検出	・ コンタクトレンズ検査料
・ 口腔粘膜処置	・ 小児食物アレルギー負荷検査
・ 検体検査管理加算(I)	・ 内服・点滴誘発試験
・ 検体検査管理加算(IV)	・ センチネルリンパ節生検(片側)
・ 国際標準検査管理加算	・ 経気管支凍結生検法
・ 遺伝カウンセリング加算	・ 画像診断管理加算1
・ 遺伝性腫瘍カウンセリング加算	・ 画像診断管理加算2
・ 心臓カテーテル法による諸検査の血管内視鏡検査加算	・ 画像診断管理加算3
・ 時間内歩行試験及びシャトルウォーキングテスト	・ 遠隔画像診断
・ 胎児心エコー法	・ CT撮影及びMRI撮影
・ ヘッドアップティルト試験	・ 冠動脈CT撮影加算
・ 皮下連続式グルコース測定	・ 血流予備量比コンピューター断層撮影
・ 長期継続頭蓋内脳波検査	・ 外傷全身CT加算



・ 心臓MRI撮影加算	・ エタノールの局所注入(副甲状腺に対するもの)
・ 乳房MRI撮影加算	・ 人工腎臓
・ 小児鎮静下MRI撮影加算	・ 導入期加算
・ 頭部MRI撮影加算	・ 口腔粘膜処置
・ 全身MRI撮影加算	・ CAD/CAM冠
・ 抗悪性腫瘍剤処方管理加算	・ 皮膚悪性腫瘍切除術(センチネルリンパ節加算を算定する場合に限る。)
・ 外来化学療法加算1	・ 皮膚移植術(死体)
・ 無菌製剤処理料	・ 組織拡張器による再建手術(一連につき)(乳房(再建手術)の場合に限る。)
・ 心大血管疾患リハビリテーション料(I)	・ 椎間版内酵素注入療法
・ 脳血管疾患等リハビリテーション料(I)	・ 脳刺激装置植込術(頭蓋内電極植込術を含む。)&及び脳刺激装置交換術、脊髄刺激装置植込術及び脊髄刺激装置交換術
・ 運動器リハビリテーション料(I)	・ 内皮移植加算
・ 呼吸器リハビリテーション料(I)	・ 緑内障手術(緑内障治療用インプラント挿入術(プレートのあるもの))
・ がん患者リハビリテーション料	・ 緑内障手術(水晶体再建術併用眼内ドレーン挿入術)
・ 集団コミュニケーション療法料	・ 人工中耳植込術、人工内耳植込術、植込型骨導補聴器移植術及び植込型骨導補聴器交換術
・ 救急患者精神科継続支援料	・ 内視鏡下鼻・副鼻腔手術V型(拡大副鼻鏡手術)
・ 抗精神病特定薬剤治療指導管理料(治療抵抗性統合失調症治療指導管理料に限る。)	・ 鏡視下咽頭悪性腫瘍手術(軟口蓋悪性腫瘍手術を含む。)
・ 医療保護入院等診療料	・ 内視鏡下甲状腺部分切除、腺腫摘出術、内視鏡下バセドウ甲状腺全摘(亜全摘)術(両葉)、内視鏡下副甲状腺(上皮小体)腺腫過形成手術
・ 硬膜外自家血注入	・ 内視鏡下甲状腺悪性腫瘍手術
・ エタノールの局所注入(甲状腺に対するもの)	・ 乳腺悪性腫瘍手術(乳がんセンチネルリンパ節加算1又は乳がんセンチネルリンパ節加算2を算定する場合に限る。)

<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 乳腺悪性腫瘍手術(乳輪温存乳房切除術(腋窩郭清を伴わないもの)及び乳輪温存乳房切除術(腋窩郭清を伴うもの))</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 大動脈バルーンパンピング法(IABP法)</li> </ul>
<ul style="list-style-type: none"> <li>・ ゲル充填人工乳房を用いた乳房再建術(乳房切除後)</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 経皮的循環補助法(ポンプカテーテルを用いたもの)</li> </ul>
<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 胸腔鏡下拡大胸腺摘出術(内視鏡手術用支援機器を用いる場合)</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 補助人工心臓</li> </ul>
<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 胸腔鏡下縦隔悪性腫瘍手術及び胸腔鏡下良性縦隔腫瘍手術(内視鏡手術用支援機器を用いる場合)</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 腹腔鏡下リンパ節群郭清術(傍大動脈)</li> </ul>
<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 胸腔鏡下肺悪性腫瘍手術(肺葉切除又は1肺葉を超えるもので、内視鏡手術用支援機器を用いる場合)</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ バルーン閉塞下経静脈的塞栓術</li> </ul>
<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 内視鏡下筋層切開術</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 胆管悪性腫瘍手術(膵頭十二指腸切除及び肝切除(葉以上)を伴うものに限る。)</li> </ul>
<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 長直縫合術(穿孔、損傷(内視鏡によるもの)、内視鏡下胃・十二指腸穿孔瘻孔閉鎖術、胃瘻閉鎖術(内視鏡によるもの)、小腸瘻閉鎖術(内視鏡によるもの)、結腸瘻閉鎖術(内視鏡によるもの)、腎(腎盂)腸瘻閉鎖術(内視鏡によるもの)、尿管腸瘻閉鎖術(内視鏡によるもの)、膀胱腸瘻閉鎖術(内視鏡によるもの)及び腔腸瘻閉鎖術(内視鏡によるもの))</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 腹腔鏡下肝切除術</li> </ul>
<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 経皮的冠動脈形成術(特殊カテーテルによるもの)</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 生体部分肝移植術</li> </ul>
<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 胸腔鏡下弁形成術及び胸腔鏡下弁置換術</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 腹腔鏡下腓腫瘍摘出術及び腹腔鏡下腓体尾部腫瘍切除術</li> </ul>
<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 経カテーテル大動脈弁置換術</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 腹腔鏡下腓頭腫瘍切除術</li> </ul>
<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 経皮的僧帽弁クリップ術</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 早期悪性腫瘍大腸粘膜下層剥離術</li> </ul>
<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 磁気ナビゲーション加算</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 腹腔鏡下直腸切除・切断術(内視鏡手術用支援機器を用いる場合)</li> </ul>
<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 経皮的中隔心筋焼灼術</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 腎腫瘍凝固・焼灼術(冷凍凝固によるもの)</li> </ul>
<ul style="list-style-type: none"> <li>・ ペースメーカー移植術及びペースメーカー交換術</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 膀胱水圧拡張術</li> </ul>
<ul style="list-style-type: none"> <li>・ ペースメーカー移植術及びペースメーカー交換術(リードレスペースメーカー)</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 腹腔鏡下膀胱悪性腫瘍手術</li> </ul>
<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 両心室ペースメーカー移植術及び両心室ペースメーカー交換術</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 人工尿道括約筋植込・置換術</li> </ul>
<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 植込型除細動器移植術、植込型除細動器交換術及び経静脈電極抜去術</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 腹腔鏡下前立腺悪性腫瘍手術</li> </ul>
<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 両室ペーシング機能付き植込型除細動器移植術及び両室ペーシング機能付き植込型除細動器交換術</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 腹腔鏡下前立腺悪性腫瘍手術(内視鏡手術用支援機器を用いるもの)</li> </ul>

<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 腹腔鏡下仙骨隆固定術</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 放射線治療専任加算</li> </ul>
<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 腹腔鏡下子宮悪性腫瘍手術(子宮体がんに限る。)</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 外来放射線治療加算</li> </ul>
<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 腹腔鏡下子宮悪性腫瘍手術(子宮体がん に足して内視鏡手術用支援機器を用いる 場合)</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 高エネルギー放射線治療</li> </ul>
<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 胃瘻造設術(内視鏡下胃瘻造設術、腹腔鏡 下胃瘻造設術を含む。)</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 1回線量増加加算</li> </ul>
<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 医科点数表第2章第10部手術の通則の19に規定す る手術(遺伝性乳癌卵巣癌症候群患者に対する子宮 附属器腫瘍摘出術に対する乳房切除術)</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 強度変調放射線治療(IMRT)</li> </ul>
<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 医科点数表第2章第10部手術の通則の19に規定す る手術(遺伝性乳癌卵巣癌症候群患者に対する乳房 切除術に限る。)</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 画像誘導放射線治療加算 (IGRT)</li> </ul>
<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 輸血管理料 I</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 体外照射呼吸性移動対策加算</li> </ul>
<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 輸血適正使用加算</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 定位放射線治療</li> </ul>
<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 人工肛門・人工膀胱造設術前処置加算</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 定位放射線治療呼吸性移動対策加算</li> </ul>
<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 胃瘻造設時嚥下機能評価加算</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 画像誘導密封小線源治療加算</li> </ul>
<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 歯周組織再生誘導手術</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 病理診断管理加算</li> </ul>
<ul style="list-style-type: none"> <li>・ レーザー機器加算の施設基準</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 悪性腫瘍病理組織標本加算</li> </ul>
<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 麻酔管理料(I)</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ クラウン・ブリッジ維持管理料</li> </ul>
<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 麻酔管理料(II)</li> </ul>	



## (様式第3)

## 高度の医療技術の開発及び評価を行う能力を有することを証する書類

## 1 研究費補助等の実績

研究課題名	研究者氏名	所属部門	金額	補助元又は委託元
非小細胞肺癌の転移活性を評価し、術後補助化学療法の効果を予測するバイオマーカーの実用化に関する研究	久保田 馨	呼吸器内科	18,005,000	補 委 日本医療研究開発機構
周期的圧刺激によって制御される血管新生のシグナル伝達機構の解明 ー非接触超音波を用いた創傷治療法の開発を目指してー	小川 令	形成外科・再建外科・美容外科	104,482,040	補 委 日本医療研究開発機構
末梢型肺癌に対する光線力学的治療に関する医師主導治験	白田 実男	呼吸器外科	57,869,500	補 委 日本医療研究開発機構
同種造血幹細胞移植患者における、ステロイド抵抗性/依存性腸管急性移植片対宿主病(GVHD)に対する便微生物移植(fecal microbiota transplantation)の有効性を検討する第Ⅱ相多施設共同研究	山口 博樹	血液内科	195,000	補 委 日本医療研究開発機構
急性大動脈解離発症前造影CT画像の解析	林 宏光	放射線科	1,741,200	補 委 日本医療研究開発機構
ブルガダ症候群における心臓突然死のリスク予測モデルの構築と診療応用のための研究 【総括・データ収集・自動解析ソフトの開発】	清水 渉	循環器内科	643,500	補 委 日本医療研究開発機構
特発性肺線維症合併進行非小細胞肺癌に対する標準治療開発に関する研究	峯岸 裕司	呼吸器内科	390,000	補 委 日本医療研究開発機構
「一過性骨髄異常増殖症に対する化学療法および白血病発症予防法の確立を目指した第2相臨床試験」の開発 【TAMに対する少量シタラピン療法の効果判定方法の開発】	植田 高弘	小児科	300,300	補 委 日本医療研究開発機構
発症時刻不明の急性期脳梗塞に対する適正な血栓溶解療法の推進を目指す研究	木村 和美	脳神経内科	130,000	補 委 日本医療研究開発機構
致死性不整脈の原因心筋イオンチャネル遺伝子に同定されるVUSのハイスループット機能評価法に関する研究開発 【致死性不整脈の病因解明のための日本国内多施設登録】	清水 渉	循環器内科	845,000	補 委 日本医療研究開発機構
タンパク質・ペプチド修飾解析による早期がん・リスク疾患診断のための血液バイオマーカーの開発	野呂 林太郎	呼吸器内科	1,820,000	補 委 日本医療研究開発機構
ピロリ菌除菌後健康人を対象とした世界初エピゲノム発がんリスク診断の実用化	貝瀬 満	消化器・肝臓内科	637,000	補 委 日本医療研究開発機構
全身性強皮症に対する新規低分子化合物の有効性に関する研究	桑名 正隆	リウマチ・膠原病内科	130,000	補 委 日本医療研究開発機構
小児脳腫瘍に対する多施設共同研究による治療開発	前林 勝也	放射線治療科	195,000	補 委 日本医療研究開発機構
糖尿病の遺伝・環境因子の包括的解析から日本発次世代型精密医療を実現するプロジェクト 【疾患コホート研究の糖尿病データベース整備】	杉原 仁	糖尿病・内分泌代謝内科	7,800,000	補 委 日本医療研究開発機構
神経線維症型に対するペパシズマブの有効性及び安全性を検討する多施設共同二重盲検無作為化比較治験	森田 明夫	脳神経外科	864,500	補 委 日本医療研究開発機構
乳腺非触知病変摘出のための磁気を用いたピンポイント検出システムの開発・海外展開 【臨床試験の実施】	武井 寛幸	乳腺科	1,600,000	補 委 日本医療研究開発機構

研究課題名	研究者氏名	所属部門	金額	補助元又は委託元
新しい災害医療対応シミュレーションシステムを用いた災害医学教育、災害医療の実践	布施 明	救命救急科	3,770,000	補委 文部科学省
ノックアウトマウスを用いた腎虚血再灌流障害におけるEgr-1の果たす役割の解析	新井 正徳	救命救急科	1,300,000	補委 文部科学省
緑内障における脳由来神経栄養因子(BDNF)の役割の解明と遺伝子治療法の開発	眼科	五十嵐 勉	1,430,000	補委 文部科学省
網膜色素変性モデルに対する水素水飲用による視細胞保護効果	小児科	五十嵐 徹	1,430,000	補委 文部科学省
無菌性炎症からみた子宮内膜症発症メカニズムと新規治療法の開発	女性診療科・産科	池田 真利子	1,430,000	補委 文部科学省
開心術後心房細動を予防する革新的な心房局所に対する抗炎症薬剤徐放化システムの構築	心臓血管外科	石井 庸介	1,300,000	補委 文部科学省
microRNAを介した全身麻酔作用機序の検討	麻酔科・ペインクリニック	石川 真士	1,170,000	補委 文部科学省
白血病幹細胞Hippo pathwayによる遺伝子変異獲得と耐性機序の解明	血液内科	猪口 孝一	780,000	補委 文部科学省
アレルギー疾患に対するアジュバント免疫療法の確立	耳鼻咽喉科・頭頸部外科	大久保 公裕	910,000	補委 文部科学省
プレコンディショニング効果におけるアクアポリン7欠損の影響	心臓血管外科	太田 恵介	780,000	補委 文部科学省
気管挿管患者に対する抜管後嚥下機能評価に基づく経口摂取開始と誤嚥性肺炎予防の研究	救命救急科	恩田 秀賢	910,000	補委 文部科学省
再生医療を用いた重症頭部外傷治療戦略の確立と効率化	救命救急科	金谷 貴大	1,950,000	補委 文部科学省
組織中および尿中ビッグデータに基づいたBCG注入後膀胱癌再発予測システムの開発	泌尿器科	木村 剛	910,000	補委 文部科学省
ずり応力によるiPS細胞由来血管内皮細胞の形態変化に伴う細胞機能・応答機構の解明	心臓血管外科	栗田 二郎	390,000	補委 文部科学省
強皮症の線維化・血管リモデリングを誘導する新規末梢血単球サブセットの同定	リウマチ・膠原病内科	桑名 正隆	1,430,000	補委 文部科学省
新たな早産予防戦略を指向した、子宮頸管における無菌性炎症とその制御機構の解明	女性診療科・産科	桑原 慶充	1,170,000	補委 文部科学省
認知症異常行動のタウ病理回路に伴うデフォルトモード・機能的ネットワーク障害の解明	精神神経科	肥田 道彦	1,690,000	補委 文部科学省
内視鏡的手縫い縫合法における臨床的有用性の評価および新しい内視鏡治療手技の開発	消化器・肝臓内科	後藤 修	1,820,000	補委 文部科学省
舌下免疫療法によるマスト細胞脱顆粒抑制機構	耳鼻咽喉科・頭頸部外科	後藤 穰	1,560,000	補委 文部科学省
多発性筋炎・皮膚筋炎に併発する間質性肺炎の高フェリチン血症のメカニズムの解明	リウマチ・膠原病内科	五野 貴久	650,000	補委 文部科学省
強皮症における石灰沈着症の分子機構の解明	リウマチ・膠原病内科	白井 悠一郎	1,170,000	補委 文部科学省

研究課題名	研究者氏名	所属部門	金額	補助元又は委託元	
脳虚血後肺炎に対する歯髄由来幹細胞治療: 肺内免疫に注目し、治療応用の可能性を探る	須田 智	脳神経内科	1,820,000	補委	文部科学省
肺癌における血清エクソソーム非コードRNAを用いたがん免疫療法の効果予測	清家 正博	呼吸器内科	1,690,000	補委	文部科学省
高気圧酸素による非侵襲的血管病治療効果の研究	高木 元	循環器内科	1,170,000	補委	文部科学省
白内障手術における水素の角膜内皮保護効果	高橋 浩	眼科	1,690,000	補委	文部科学省
乳癌の術前内分泌療法の新しい効果予測因子の検討-血管新生からのアプローチ	武井 寛幸	乳腺科	1,170,000	補委	文部科学省
中隔子宮における流産メカニズムの解明	竹下 俊行	女性診療科・産科	910,000	補委	文部科学省
臨床症状と遺伝素因に基づくパーチェット病の亜群分類	岳野 光洋	リウマチ・膠原病内科	1,430,000	補委	文部科学省
タウ蛋白および5-HT1B受容体PETによるアミロイド関連うつ病の病態解明研究	舘野 周	精神神経科	1,690,000	補委	文部科学省
Liquid biopsyを用いたHCC術後再発予測に有用なバイオマーカーの開発	谷合 信彦	消化器外科	1,300,000	補委	文部科学省
新たなケロイド治療法開発を目指した新規ケロイド幹細胞維持機構の解明	土佐 眞美子	形成外科・再建外科・美容外科	650,000	補委	文部科学省
Gut microbiotaの制御が脳虚血病巣進展および神経機能に及ぼす影響	西山 康裕	脳神経内科	1,040,000	補委	文部科学省
3次元プリンターにより作製した心房電極を用いた心房細動の多点同時マッピング	新田 隆	心臓血管外科	910,000	補委	文部科学省
治療遺伝子を強発現させた歯髄幹細胞による脳梗塞治療法の確立-臨床応用へ向けて-	仁藤 智香子	脳神経内科	1,690,000	補委	文部科学省
診療参加型実習に対応できる医学生の内視鏡外科手技自習プログラムの検討	野村 務	消化器外科	780,000	補委	文部科学省
悪性黒色腫におけるMAPキナーゼ活性化制御分子の同定	船坂 陽子	皮膚科	1,170,000	補委	文部科学省
悪性黒色腫特異的な新規腫瘍マーカーの臨床応用	帆足 俊彦	皮膚科	1,690,000	補委	文部科学省
外科侵襲における脂肪組織のミトコンドリア/小胞体ストレス誘導性アポトーシスの解明	松谷 毅	消化器外科	1,560,000	補委	文部科学省
内耳性難聴発症に対する細胞生物学的・行動科学的アプローチと新規治療法の開発	松延 毅	耳鼻咽喉科・頭頸部外科	1,560,000	補委	文部科学省
心筋細胞細胞外マトリックスグラフト移植による新しい心不全治療の開発	宮城 泰雄	心臓血管外科	760,000	補委	文部科学省
外側からのマクロファージ浸潤により血管再生を促進する吸収性動脈グラフトの開発	宮地 秀樹	循環器内科	1,690,000	補委	文部科学省
もやもや病類縁頭蓋内血管狭窄の網羅的遺伝子解析による発現機序の同定	村井 保夫	脳神経外科	780,000	補委	文部科学省
デジタル乳房トモシンセシス画像の最適化・品質管理の研究	村上 隆介	放射線科	390,000	補委	文部科学省

研究課題名	研究者氏名	所属部門	金額	補助元又は委託元	
エピジェネティクスを用いた全ゲノム解析による遺伝性不整脈疾患の新規発症機序の解明	村田 広茂	循環器内科	2,860,000	補委	文部科学省
循環DNAと循環腫瘍細胞を用いた抗EGFR抗体耐性機序の解明と新規分子標的の探索	山田 岳史	消化器外科	1,170,000	補委	文部科学省
脳死下臓器提供への本人意思を実現するために救急医療施設が対応すべき脳死判定の研究	横田 裕行	救命救急科	1,170,000	補委	文部科学省
血中腫瘍細胞に対する脾臓の役割の解明	吉田 寛	消化器外科	1,950,000	補委	文部科学省
うつ病におけるセロトニン1B受容体のPETイメージングを用いた評価研究	野上 毅	精神神経科	1,430,000	補委	文部科学省
親油性白金系抗癌剤のemulsion化による薬剤送達最適化の試み	安井 大祐	放射線科	650,000	補委	文部科学省
エストロゲンで発現変化するウロコリン2は女性の気分調節因子か?	渡邊 建一郎	女性診療科・産科	1,170,000	補委	文部科学省
術前リキッドバイオプシーでのテロメア測定による大腸癌肝転移術後の予後予測	青木 悠人	消化器外科	1,430,000	補委	文部科学省
PPAR $\alpha$ アゴニスト点眼剤を用いた血管新生緑内障への治療応用の試み	有馬 武志	眼科	1,040,000	補委	文部科学省
急性動脈閉塞症に対する革新的な血管内治療デバイスの開発	上田 達夫	放射線科	1,040,000	補委	文部科学省
下咽頭食道癌切除、再建手術における嚥下機能改善のための食道内圧測定	梅澤 裕己	形成外科・再建外科・美容外科	520,000	補委	文部科学省
ボルテゾミブを用いた、Rhoを介した肺血管透過性亢進のメカニズムと治療法の解明	柏田 建	呼吸器内科	1,170,000	補委	文部科学省
聴覚障害におけるRas/Erk経路の細胞生物学的・行動科学的アプローチによる研究	加藤 大星	耳鼻咽喉科・頭頸部外科	1,560,000	補委	文部科学省
ドパミントランスポーター及びタウイメージングによる老年期発症うつ病の病態解明研究	坂寄 健	精神神経科	780,000	補委	文部科学省
がん幹細胞・上皮間葉移行が関わる肺がん分子標的薬の耐性克服～根治を目指して	菅野 哲平	呼吸器内科	1,040,000	補委	文部科学省
内耳障害における栄養因子を中心とする新しい分子メカニズムについての研究	鈴木 宏隆	耳鼻咽喉科・頭頸部外科	1,560,000	補委	文部科学省
4D Flow MRIを用いた閉塞性肥大型心筋症における網羅的血流解析	関根 鉄朗	放射線科	3,120,000	補委	文部科学省
閉塞性大腸癌における自己拡張型金属ステントの腫瘍学的安全性の評価	高橋 吾郎	消化器外科	1,300,000	補委	文部科学省
骨癒合遷延をもたらすmicroRNA抑制による新たな骨折分子治療の確立	原 義明	救命救急科	1,690,000	補委	文部科学省
4遺伝子シグネチャーによるI期肺腺癌の再発予測システムの構築 国際共同試験	野呂 林太郎	呼吸器内科	11,960,000	補委	文部科学省
高度な医療コミュニケーション教育にむけたアンドロイド型医療面接システム	伊藤 保彦	小児科	195,000	補委	文部科学省
高度な医療コミュニケーション教育にむけたアンドロイド型医療面接システム	竹下 俊行	女性診療科・産科	195,000	補委	文部科学省



研究課題名	研究者氏名	所属部門	金額	補助元又は委託元	
本邦の甲状腺癌大規模症例群を用いた分子標的探索と分子・臨床統合的リスク分類の策定	杉谷 巖	内分泌外科	780,000	補委	文部科学省
高度な医療コミュニケーション教育にむけたアンドロイド型医療面接システム	大久保 公裕	耳鼻咽喉科・頭頸部外科	195,000	補委	文部科学省
「拍動流補助循環」の重症呼吸不全治療に対する効果－定常流補助と比較する－	市場 晋吾	外科系集中治療科	260,000	補委	文部科学省
非侵襲的脳機能画像法による歯科恐怖症の脳内ネットワークの解明と新たな対応法の開発	大久保 善朗	精神神経科	260,000	補委	文部科学省
全身性エリテマトーデスにおける自己抗体の病的役割の解明と新規治療戦略の構築	岳野 光洋	リウマチ・膠原病内科	65,000	補委	文部科学省
非侵襲的脳機能画像法による歯科恐怖症の脳内ネットワークの解明と新たな対応法の開発	舘野 周	精神神経科	130,000	補委	文部科学省
インスリン分泌能規定因子としての脂肪酸動態：新規モデルマウスを用いた解析	杉原 仁	糖尿病・内分泌代謝内科	260,000	補委	文部科学省
甲状腺細胞診検体を用いた濾胞癌におけるゲノムワイド分子診断マーカーの探索	杉谷 巖	内分泌外科	130,000	補委	文部科学省
非侵襲的脳機能画像法による歯科恐怖症の脳内ネットワークの解明と新たな対応法の開発	肥田 道彦	精神神経科	130,000	補委	文部科学省
脳死下・心停止下における臓器・組織提供ドナー家族における満足度の向上及び効率的な提供体制構築に資する研究	横田 裕行	救命救急科	7,615,000	補委	厚生労働省
2020年東京オリンピック・パラリンピック競技大会における救急・災害医療提供体制に関する研究	横田 裕行	救命救急科	9,425,000	補委	厚生労働省
小児期および成人移行期小児リウマチ患者の全国調査データの解析と両者の異同性に基づいた全国的「シームレス」診療ネットワーク構築による標準的治療の均てん化	五十嵐 徹	小児科	300,000	補委	厚生労働省
自己免疫疾患に関する調査研究	伊藤 保彦	小児科	500,000	補委	厚生労働省
原発性高脂血症に関する調査研究	稲垣 恭子	糖尿病・内分泌代謝内科	150,000	補委	厚生労働省
強皮症・皮膚線維化疾患の診断基準・重症度分類・診療ガイドラインに関する研究	桑名 正隆	リウマチ・膠原病内科	150,000	補委	厚生労働省
血液凝固異常症等に関する研究	桑名 正隆	リウマチ・膠原病内科	800,000	補委	厚生労働省
小児期遺伝性不整脈疾患の睡眠中突然死予防に関する研究	清水 渉	循環器内科	1,300,000	補委	厚生労働省
ベーチェット病に関する調査研究	岳野 光洋	リウマチ・膠原病内科	400,000	補委	厚生労働省
間脳下垂体機能障害に関する調査研究	田原 重志	脳神経外科	200,000	補委	厚生労働省
先天性骨髄不全症の登録システムの構築と診断基準・重症度分類・診断ガイドラインの確立に関する研究	山口 博樹	血液内科	400,000	補委	厚生労働省
地域医療構想を見据えた救急医療提供体制の構築に関する研究	横田 裕行	救命救急科	200,000	補委	厚生労働省
5類型施設における効率的な臓器・組織の提供体制構築に資する研究－ドナー評価・管理と術中管理体制の新たな体制構築に向けて－	横田 裕行	救命救急科	200,000	補委	厚生労働省

小計22件

研究課題名	研究者氏名	所属部門	金額	補助元又は委託元	
2020年オリンピック・パラリンピック東京大会に向けた熱中症診療ガイドライン改定に向けた研究	横堀 将司	救命救急科	1,500,000	補 委	厚生労働省

小計1件

合計105件

- (注) 1 国、地方公共団体又は公益法人から補助金の交付又は委託を受け、当該医療機関に所属する医師等が申請の前年度に行った研究のうち、高度の医療技術の開発及び評価に資するものと判断される主なものを記入すること。
- 2 「研究者氏名」欄は、1つの研究について研究者が複数いる場合には、主たる研究者の氏名を記入すること。
- 3 「補助元又は委託元」欄は、補助の場合は「補」に、委託の場合は「委」に、○印をつけた上で、補助元又は委託元を記入すること。

## (様式第3)

## 高度の医療技術の開発及び評価を行う能力を有することを証する書類

## 2 論文発表等の実績

## (1)高度の医療技術の開発及び評価を行うことの評価対象となる論文

番号	発表者氏名	筆頭著者の 特定機能病院に おける所属	題名	雑誌名	出版年月等	巻数・該当ページ	論文種別
1	Masataka Kuwana, Arata Azuma	リウマチ・膠原病内科	Nintedanib: New indication for systemic sclerosis-associated interstitial lung disease.	Modern rheumatology	2020年3月	第30巻 P329-351	Review
2	Mitsuhiro Takeno	リウマチ・膠原病内科	Positioning of apremilast in treatment of Behçet's disease	Modern rheumatology	2020年3月	第2巻 P219-224	Review
3	Takahisa Gono, Masataka Kuwana	リウマチ・膠原病内科	Current understanding and recent advances in myositis-specific and -associated autoantibodies detected in patients with dermatomyositis.	Expert review of clinical immunology	2020年1月	第16巻 P79-89	Review
4	Yuko Ota, Masataka Kuwana	リウマチ・膠原病内科	Endothelial cells and endothelial progenitor cells in the pathogenesis of systemic sclerosis.	European journal of rheumatology	2019年12月	Online ahead of print	Review
5	Takahisa Gono, Yoshinori Tanino, Ayumi Nishikawa, et al.	リウマチ・膠原病内科	Two cases with autoantibodies to small ubiquitin-like modifier activating enzyme: A potential unique subset of dermatomyositis-associated interstitial lung disease.	International journal of rheumatic diseases	2019年12月	第22巻 P1582-1586	Case report
6	Igarashi Tsutomu	眼科	Effects of hydrogen in prevention of corneal endothelial damages during phacoemulsification: A prospective randomized clinical trial.	Am J Ophthalmol.	2019年5月	45(8):1168-1171.	Original Article
7	Kunishige Tomoyuki	眼科	VISTA is crucial for corneal allograft survival and maintenance of immune privilege	Invest Ophthalmol Vis Sci.	2019年12月	60(15):4958-4965.	Original Article
8	Shoji Yokobori, Kazuma Sasaki, Takahiro Kanaya, et al	救命救急科	Feasibility of Human Neural Stem Cell Transplantation for the Treatment of Acute Subdural Hematoma in a Rat Model: A Pilot Study.	Frontiers in Neurology	2019年2月	第10巻 P82	Original Article
9	Nakae Ryuta, Yokobori Shoji, Takayama Yasuhiro, et al	救命救急科	A retrospective study of the effect of fibrinogen levels during fresh frozen plasma transfusion in patients with traumatic brain injury	Acta Neurochir (Wien)	2019年7月	第161巻 P1943-1953	Original Article
10	Nakae Ryuta, Yokobori Shoji, Takayama Yasuhiro, et al	救命救急科	Response to letter to the editor regarding "A retrospective study of the effect of fibrinogen levels during fresh frozen plasma transfusion in patients with traumatic brain injury"	Acta Neurochir (Wien)	2019年11月	第161巻 P2481-2482	Letter
11	Yutaka Igarashi	救命救急科	New classifications for Life-threatening foreign body airway obstruction	American Journal of Emergency Medicine	2019年5月	37巻2177-2181	Original Article
12	Arai Masatoku	救急診療科	Delayed development of portal vein thrombosis in a patient initially detected with portal venous gas and pneumatosis intestinalis: a case report.	Acute Med Surg.	2019 Aug 8	6(4):419-422	Case report

番号	発表者氏名	筆頭著者の 特定機能病院に おける所属	題名	雑誌名	出版年月等	巻数・該当ページ	論文種別
13	Arai Masatoku	救急診療科	Portal venous gas in adults: The clinical significance, management and outcomes of 25 consecutive cases.	J Nippon Med Sch.	2020 Mar 31	doi: 10.	Original Article
14	Jitsuo Usuda	呼吸器外科	Clinical trial of photodynamic therapy for peripheral-type lung cancers using a new laser device in a pilot study	Photodiagnosis Photodyn Ther	2020/Mar	Volume30 available on line	Original Article
15	Watanabe M, Fukazawa R, Ogawa S, et al.	小児科	Virtual histology intravascular ultrasound evaluation of coronary artery lesions within 1 year and more than 10 years after the onset of Kawasaki disease.	J Cardiol	2020年2月	24巻 p484-92	Original Article
16	Shinji S, Sasaki N, Yamada T, et al.	消化器外科	Establishment and characterization of a novel neuroendocrine carcinoma cell line derived from a human ascending colon tumor	Cancer Sci	2019年12月	(12):3708-3717	Original Article
17	Takeda K, Yamada T, Takahashi G, et al.	消化器外科	Analysis of colorectal cancer-related mutations by liquid biopsy: Utility of circulating cell-free DNA and circulating tumor cells	Cancer Sci	2019年11月	110(11):3497-3509	Original Article
18	Iwai T, Yamada T, Takahashi G, et al.	消化器外科	Circulating cell-free long DNA fragments predict post-hepatectomy recurrence of colorectal liver metastases	Eur J Surg Oncol	2020年1月	46(1):108-114	Original Article
19	Matsuda A, Yamada T, Matsumoto S, et al.	消化器外科	Pretreatment Neutrophil-to-Lymphocyte Ratio Predicts Survival After TAS-102 Treatment of Patients With Metastatic Colorectal Cancer	Anticancer Res	2019年8月	39(8):4343-4350	Original Article
20	Matsuda A, Yamada M, Matsumoto S, et al.	消化器外科	Blood Galectin-3 Levels Predict Postoperative Complications after Colorectal Cancer Surgery	J Nippon Med Sch	2019年7月	86(3):142-148	Original Article
21	Yoshida H, Taniai N, Yoshioka M, et al.	消化器外科	Current Status of Laparoscopic Hepatectomy	J Nippon Med Sch	2019年9月	86(4):201-206	Original Article
22	Yoshioka M, Taniai N, Kawano Y, et al.	消化器外科	Effectiveness of Laparoscopic Repeat Hepatectomy for Recurrent Liver Cancer	J Nippon Med Sch	2019年9月	86(4):222-229	Original Article
23	Yoshioka M, Taniai N, Kawano Y, et al.	消化器外科	Laparoscopic Repeat Hepatectomy with Indocyanine Green Fluorescence Navigation: A Case Report	J Nippon Med Sch	2019年12月	86(5):291-295	Original Article
24	Matsuda A, Yamada T, Matsumoto S, et al.	消化器外科	Short-term outcomes of a self-expandable metallic stent as a bridge to surgery vs. a transanal decompression tube for malignant large-bowel obstruction: a meta-	Surg Today	2019年9月	49(9):728-737	Original Article
25	Matsuda A, Miyashita M, Matsumoto S, et al.	消化器外科	Colonic stent-induced mechanical compression may suppress cancer cell proliferation in malignant large bowel obstruction	Surg Endosc	2019年4月	33(4):1290-1297	Original Article

番号	発表者氏名	筆頭著者の 特定機能病院に おける所属	題名	雑誌名	出版年月等	巻数・該当ページ	論文種別
26	Ito-Hagiwara Kanako, Iwasaki Yu-Ki, Hayashi Meiso et al.	循環器内科	Electrocardiographic characteristics in the patients with a persistent left superior vena cava	Heart Vessels	2019年4月	第34巻 P650-657	Original Article
27	Oka Eiichiro, Iwasaki Yu-Ki, Shimizu Wataru	循環器内科	What Determines the Response to Landiolol? - Reply	Circ J	2019年6月	第83巻 P1618-1619	Original Article
28	Imori Yoichi, Takano Hitoshi, Kitamura Mitsunobu et al.	循環器内科	Percutaneous transluminal septal myocardial ablation for hypertrophic obstructive cardiomyopathy through non-left anterior descending septal perforators	Heart Vessels	2019年10月	第35巻 P647-654	Original Article
29	Akutsu Koichi, Yoshino Hideaki, Shimokawa Tomoki et al.	循環器内科	Is systolic blood pressure high in patients with acute aortic dissection on first medical contact before hospital transfer?	Heart Vessels	2019年11月	第4巻 P1748-1757	Original Article
30	Aoyama Rie, Takano Hitoshi, Sangen Hideto et al.	循環器内科	Effective alcohol septal ablation for left ventricular outflow tract obstruction in a patient with isolated dextrocardia	BMJ Case Rep	2019年11月	第12巻 e231922	Case report
31	Imori Yoichi, Takano Hitoshi, Mase Hiroshi et al.	循環器内科	Bisoprolol transdermal patch for perioperative care of non-cardiac surgery in patients with hypertrophic obstructive cardiomyopathy	BMC Cardiovasc Disord	2019年12月	第19巻 P316	Original Article
32	Hideki Miyachi, Shuhei Tara, Satoru Otsuru et al.	循環器内科	Imatinib attenuates neotissue formation during vascular Imatinib attenuates neotissue formation during vascular remodeling in an arterial bioresorbable vascular	JVS: Vascular Science	2020年3月	第1巻 Pf57-67	Original Article
33	Kazutoshi Higuch	消化器・肝臓内科	Usefulness of 3-Dimensional Flexible Endoscopy in Esophageal Endoscopic Submucosal Dissection in an Ex Vivo Animal Model	Gastroenterol Res Pract	2019年11月	3;2019:4051956.	Original Article
34	Taeang Arai	消化器・肝臓内科	Factors influencing subclinical atherosclerosis in patients with biopsy-proven nonalcoholic fatty liver disease	PLoS One	2019年11月	13;14(11):e0224184.	Original Article
35	Tomohide Tanabe	消化器・肝臓内科	Efficacy of long-term maintenance therapy with 10-mg vonoprazan for proton pump inhibitor-resistant reflux esophagitis	Esophagus	2019年10月	16(4):377-381.	Original Article
36	Osamu Goto	消化器・肝臓内科	Feasibility and safety of third-space endoscopic full-thickness resection in ex vivo and in vivo porcine models	Endosc Int Open	2019年4月	7(4):E471-E476	Original Article
37	Masanori Atsukawa	消化器・肝臓内科	The efficacy and safety of glecaprevir plus pibrentasvir in 141 patients with severe renal impairment: a prospective, multicenter study	Aliment Pharmacol Ther	2019年5月	49(9):1230-1241.	Original Article
38	Taeang Arai	消化器・肝臓内科	Association of vitamin D levels and vitamin D-related gene polymorphisms with liver fibrosis in patients with biopsy-proven nonalcoholic fatty liver disease	Dig Liver Dis	2019年7月	51(7):1036-1042.	Original Article

番号	発表者氏名	筆頭著者の 特定機能病院に おける所属	題名	雑誌名	出版年月等	巻数・該当ページ	論文種別
39	Yoshimasa Hoshikawa	消化器・肝臓内科	Efficacy of on-demand therapy using 20-mg vonoprazan for non-erosive reflux disease	Esophagus	2019年4月	16(2):201-206.	Original Article
40	Jun Omori	消化器・肝臓内科	Pilot Study Indicates Helicobacter pylori Infection May Induce Small Intestinal Mucosal Injury	Digestion	2019年1月	99(1):66-71.	Original Article
41	Masanori Atsukawa	消化器・肝臓内科	Efficacy and safety of ombitasvir/paritaprevir/ritonavir and ribavirin for chronic hepatitis patients infected with genotype 2a in Japan	Hepatol Res	2019年4月	49(4):369-376.	Original Article
42	Osamu Goto	消化器・肝臓内科	Flexible traction method for endoscopic resection by using an endoscopic hand suturing technique	Endoscopy	2019年1月	51(1):E3-E4.	Original Article
43	Norio Itokawa	消化器・肝臓内科	Efficacy of direct-acting antiviral treatment in patients with compensated liver cirrhosis: A multicenter study	Hepatol Res	2019年2月	49(2):125-135.	Original Article
44	Masanori Atsukawa	消化器・肝臓内科	Efficacy and safety of elbasvir/grazoprevir for Japanese patients with genotype 1b chronic hepatitis C complicated by chronic kidney disease, including those undergoing hemodialysis: A post hoc analysis of a multicenter study	J Gastroenterol Hepatol	2019年2月	34(2):364-369.	Original Article
45	Kosuke Terada	腎臓内科	Prognostic markers of heart failure in patients undergoing peritoneal dialysis	Renal Replacement Therapy	2019 Sep	オンライン	Original Article
46	Tani Takashi	腎臓内科	Metabolomics analysis elucidates unique influences on purine / pyrimidine metabolism by xanthine oxidoreductase inhibitors in a rat model of renal ischemia-reperfusion injury	Molecular Medicine	2019年8月 (オンライン)	オンライン	Original Article
47	Tani Takashi	腎臓内科	Inhibition of tissue-nonspecific alkaline phosphatase protects against medial arterial calcification and improves survival probability in the CKD-MBD mouse model	The Journal of Pathology	2020年1月	第250巻 P30-41	Original Article
48	Yuichiro Sumi	腎臓内科	Association of adipocytokines with peritoneal function	Peritoneal Dialysis International	2020年1月	Perit Dial Int. 2020 Jan 17 (オンライン)	Original Article
49	Mii Akiko	腎臓内科	Renal Complications after Hematopoietic Stem Cell Transplantation: Role of Graft-Versus-Host Disease in Renal Thrombotic Microangiopathy.	J Nippon Med Sch.	2020年3月	87巻 p7-12	Review
50	Aratani Sae	腎臓内科	A case of female Fabry disease revealed by renal biopsy.	CEN Case Rep.	2020年2月	第9巻 P24-29	Case report

番号	発表者氏名	筆頭著者の 特定機能病院に おける所属	題名	雑誌名	出版年月等	巻数・該当ページ	論文種別
51	Jun Aatsuka, Yoichiro Yamamoto, Tetsuro Sekine, et al.	泌尿器科	Illuminating Clues of Cancer Buried in Prostate MR Image: Deep Learning and Expert Approaches	biomolecules	2019/10月	第9巻, 673 (オンライン)	Original Article
52	Yuki Endo, Jun Akatsuka, Kotaro Obayashi	泌尿器科	Efficacy of Laparoscopic Partial Cystectomy with a Transurethral Resectoscope in Patients with Bladder Endometriosis: See-Through Technique.	Urologia Internationalis	2020/3月	104:546-550	Original Article
53	Tsunoda Youhei	女性診療科・産科	Role of hysteroscopy in the diagnosis of uterine artery pseudoaneurysm: a case report	J Obstet Gynaecol .	2019年10月	1356-1359.	Original Article
54	Ichikawa Masao	女性診療科・産科	Accuracy and clinical value of an adhesion scoring system: A preoperative diagnostic method using transvaginal ultrasonography for endometriotic adhesion	J Obstet Gynaecol Res .	2019年5月	466-478	Original Article
55	Kuwabara Yoshimitsu	女性診療科・産科	Unique Clinical and Histological Features of Placental Mesenchymal Dysplasia Complicated by Severe Preeclampsia in the Midtrimester	AJP Rep	2020年1月	e113-e117	Case report
56	Wakakuri Hiroaki	総合診療科	Serum Hepcidin-25 Levels Reflect the Presence of Bacteremia in Patients with Systemic Inflammatory Response Syndrome	J Nippon Med Sch .	2019年4月	第86巻 P91-97	Original Article
57	Nagao Mototsugu, Esguerra LS Jonathan, Anna Wendt, et al.	糖尿病・内分泌 代謝内科	Selectively Bred Diabetes Models: GK Rats, NSY Mice, and ON Mice	Methods in Molecular Biology	2020年3月	第2128巻 P25-54	Review
58	Soga Akimi, Fukuda Izumi, Kobayashi Shunsuke, et al.	糖尿病・内分泌 代謝内科	Preoperative growth hormone (GH) peak values during a GH releasing peptide-2 test reflect the severity of hypopituitarism and the postoperative recovery of GH secretion in patients with non-functioning pituitary adenomas	Endocrine Journal	2020年2月	第67巻 P167-175	Original Article
59	Asai Akira, Shuto Yuki, Nagao Mototsugu, et al.	糖尿病・内分泌 代謝内科	Metformin Attenuates Early- Stage Atherosclerosis in Mildly Hyperglycemic Oikawa-Nagao Mice	Journal of Atherosclerosi s and Thrombosis	2019年12月	第26巻 P1075-1083	Original Article
60	Oba Takeshi, Kobayashi Shunsuke, Yuko Nakamura, et al.	糖尿病・内分泌 代謝内科	A Case of Gitelman Syndrome that Was Difficult to Distinguish from Hypokalemic Periodic Paralysis Caused by Graves' Disease	Journal of Nippon Medical School	2019年12月	第86巻 P301-306	Case report
61	Nagamine Tomoko, Yoshimura N Jaeduk, Emoto Naoya, et al.	糖尿病・内分泌 代謝内科	Painless destructive thyroiditis in a patient with resistance to thyroid hormone: a case report	Thyroid Research	2019年10月	第12巻 Article No. 8	Case report

番号	発表者氏名	筆頭著者の 特定機能病院に おける所属	題名	雑誌名	出版年月等	巻数・該当ページ	論文種別
62	Nanno Mitsuhiko	整形外科・ リウマチ外科	Pins and rubbers traction system for fractures of the proximal interphalangeal joint	J Orthop Surg	2019年5月	27(2)	Original Article
63	Oshima Yasushi	整形外科・ リウマチ外科	Abnormal Posture Relating to the Alignment of Spine and Lower Extremity	Adv Orthop	2019年7月	25;2019:846036 4.	Original Article
64	Oshima Yasushi	整形外科・ リウマチ外科	Knee-Hip-Spine Syndrome: Improvement in Preoperative Abnormal Posture following Total Knee Arthroplasty	Adv Orthop	2019年7月	1;2019:8484938	Original Article
65	Tomori Yuji	整形外科・ リウマチ外科	Closed rupture of extensor tendon resulting from untreated Kienböck disease: A case report and a review of the literature.	Medicine	2019年8月	98(33):e16900( オンライン)	Case report
66	Watanabe Hiroshi	整形外科・ リウマチ外科	Posterior tibial slope angle is associated with flexion-type Salter-Harris II and Watson- Jones type IV fractures of the proximal tibia	Knee Surg Sports Traumatol Arthrosc	2019年9月	27(9):2994- 3000	Original Article
67	Tomori Yuji	整形外科・ リウマチ外科	Outcomes of nonsurgical treatment for transcondylar humeral fractures in adults: Clinical results of nonoperative management	Medicine	2019年11月	98(46):e17973( オンライン)	Original Article
68	Tomori Yuji	整形外科・ リウマチ外科	Clinical outcomes of nonsurgical treatment for Preiser disease	Medicine	2020年1月	99(4):e18883(オ ンライン)	Original Article
69	Nanno Mitsuhiko	整形外科・ リウマチ外科	Volar Locking Plate Fixation for Intra-Articular Distal Radius Fractures with Volar Lunate Facet Fragments Distal to the Watershed Line	J Nippon Med Sch	2020年2月	87(1):24-31	Original Article
70	Satake Yoshihiko	整形外科・ リウマチ外科	Use of a Costal Osteochondral Graft for Reconstruction of a Proximal Phalanx Head With a Comminuted Fracture of the Proximal Interphalangeal Joint. Journal of Nippon Medical School. 2020 Feb; 87(1):37-42	J Nippon Med Sch	2020年2月	87(1):37-42	Original Article
71	Hoshikawa Naoya	整形外科・ リウマチ外科	Targeting Extracellular miR-21- TLR7 Signaling Provides Long- Lasting Analgesia in Osteoarthritis.	Molecular therapy nucleic acids	2020年3月	19:199-207	Original Article

(注) 1 当該特定機能病院に所属する医師等が前年度に発表した英語論文のうち、高度の医療技術の開発および評価に資するものと判断されるものを七十件以上記入すること。七十件以上発表を行っている場合には、七十件のみを記載するのではなく、合理的な範囲で可能な限り記載すること。



番号	発表者氏名	筆頭著者の 特定機能病院に おける所属	題名	雑誌名	出版年月等	巻数・該当ページ	論文種別
----	-------	---------------------------	----	-----	-------	----------	------

- 2 報告の対象とするのは、筆頭著者の所属先が当該特定機能病院である論文であり、査読のある学術雑誌に掲載されたものに限るものであること。ただし、実態上、当該特定機能病院を附属している大学の講座等と当該特定機能病院の診療科が同一の組織として活動を行っている場合においては、筆頭著者の所属先が大学の当該講座等であっても、論文の数の算定対象に含めるものであること(筆頭著者が当該特定機能病院に所属している場合に限る。)
- 3 「発表者氏名」に関しては、英文で、筆頭著者を先頭に論文に記載された順に3名までを記載し、それ以上は、他、またはet al.とする。
- 4 「筆頭著者の所属」については、和文で、筆頭著者の特定機能病院における所属を記載すること。
- 5 「雑誌名・出版年月等」欄には、「雑誌名. 出版年月(原則雑誌掲載月とし、Epub ahead of printやin pressの掲載月は認めない); 巻数: 該当ページ」の形式で記載すること  
(出版がオンラインのみの場合は雑誌名、出版年月(オンライン掲載月)の後に(オンライン)と明記すること)。  
記載例: Lancet. 2015 Dec; 386: 2367-9 / Lancet. 2015 Dec (オンライン)
- 6 「論文種別」欄には、Original Article、Case report、Review、Letter、Othersから一つ選択すること。

(様式第3)

高度の医療技術の開発及び評価を行う能力を有することを証する書類

3 高度の医療技術の開発及び評価の実施体制

(1) 倫理審査委員会の開催状況

① 倫理審査委員会の設置状況	有 無
② 倫理審査委員会の手順書の整備状況	有 無
・ 手順書の主な内容 研究の種類、審査委員会と窓口、研究内容と審査機関、臨床研究実施の流れ、研究計画書作成ならびに申請時の注意事項、研究計画の事前登録、学外での研究計画書の審査依頼について、相談窓口	
③ 倫理審査委員会の開催状況	年12回

- (注) 1 倫理審査委員会については、「臨床研究に関する倫理指針」に定める構成である場合に「有」に○印を付けること。  
2 前年度の実績を記載すること。

(2) 利益相反を管理するための措置

① 利益相反を審査し、適当な管理措置について検討するための委員会の設置状況	有 無
② 利益相反の管理に関する規定の整備状況	有 無
・ 規定の主な内容 委員会の構成、審議事項、利益相反マネジメントのプロセス、臨床研究に係る利益相反の審議に関する倫理委員会との関係、利益相反マネジメントの管理の方法等	
③ 利益相反を審査し、適当な管理措置について検討するための委員会の開催状況	年2回 (ただし、特例案件75件)

- (注) 前年度の実績を記載すること。

(3) 臨床研究の倫理に関する講習等の実施

① 臨床研究の倫理に関する講習等の実施状況	年2回
・ 研修の主な内容 医学系研究を中心とした臨床研究に関する規制について 人を対象とする医学系研究における統計解析の基本	

- (注) 前年度の実績を記載すること。

(様式第 4)

高度の医療に関する研修を行わせる能力を有することを証する書類

1 研修の内容

当院の専門研修プログラムは、2年間の必修初期臨床研修の終了後、さらに臨床医学に関する知識と技能を向上させ、より専門的な臨床研修を行うためのものである。平成30年度より、新たな専門医制度が始まり、基本領域学会及び日本専門医機構の審査・認定を受けた専門研修プログラムに基づき、各領域で専門医取得や大学院進学等につながる多彩な研修コースを提示している。日本医科大学付属病院、武蔵小杉病院、多摩永山病院、千葉北総病院の四つの付属病院において、それぞれの特色を生かした診療体制の中でローテーションが可能であり、高度な医療、先進医療の研修を可能にしている。愛と研究心を有し、質の高い医療を求める国民のニーズに応えうる人材の育成を目指す。

(注) 上記の研修内容は医師法及び歯科医師法の規定による臨床研修を終了した医師及び歯科医師に対する専門的な研修について記載すること。

2 研修の実績

上記研修を受けた医師数	183人
-------------	------

(注) 前年度の研修を受けた医師の実績を記入すること。

3 研修統括者

研修統括者氏名	診療科	役職等	臨床経験年数	特記事項
清水 渉	循環器内科	部長	35年	
木村和美	脳神経内科	部長	34年	
鶴岡秀一	腎臓内科	部長	31年	H31.4.1~R1.12.31
酒井行直	腎臓内科	部長	28年	R2.1.1~R2.3.31
猪口孝一	血液内科	部長	39年	
岩切勝彦	消化器・肝臓内科	部長	34年	
杉原 仁	内分泌代謝内科	部長	37年	
清家正博	呼吸器内科	部長	28年	
安武正弘	老年内科	部長	36年	
大久保善朗	精神科	部長	40年	
伊藤保彦	小児科	部長	37年	
佐伯秀久	皮膚科	部長	29年	
岸川洋昭	麻酔科	部長	25年	
汲田伸一郎	放射線科	部長	34年	
吉田 寛	消化器外科	部長	34年	
杉谷 巖	内分泌外科	部長	31年	
新田 隆	心臓血管外科	部長	39年	
白田実男	呼吸器外科	部長	26年	
森田明夫	脳神経外科	部長	38年	
高橋 浩	眼科	部長	37年	
大久保公裕	耳鼻いんこう科	部長	36年	
竹下俊行	産婦人科	部長	39年	
近藤幸尋	泌尿器科	部長	35年	
高井信朗	整形外科	部長	40年	
小川 令	形成外科	部長	21年	
横田裕行	救急科	部長	40年	

桑名正隆	リウマチ科	部長	32年
廣田 薫	漢方内科	部長	31年
清水章	病理診断科	部長	35年
久野彰子	歯科	部長	27年
木村和美	リハビリテーション科	部長	34年

- (注) 1 医療法施行規則第六条の四第一項又は第四項の規定により、標榜を行うこととされている診療科については、必ず記載すること。
- (注) 2 内科について、サブスペシャリティ領域ごとに研修統括者を配置している場合には、すべてのサブスペシャリティ領域について研修統括者を記載すること。
- (注) 3 外科について、サブスペシャリティ領域ごとに研修統括者を配置している場合には、すべてのサブスペシャリティ領域について研修統括者を記載すること。

(様式第 4)

高度の医療に関する研修を行わせる能力を有することを証する書類

4 医師、歯科医師以外の医療従事者等に対する研修

① 医師、歯科医師以外の医療従事者に対する研修の実施状況（任意）
<ul style="list-style-type: none"><li>・研修の主な内容</li><li>・研修の期間・実施回数</li><li>・研修の参加人数</li></ul>
② 業務の管理に関する研修の実施状況（任意）
<ul style="list-style-type: none"><li>・研修の主な内容</li><li>・研修の期間・実施回数</li><li>・研修の参加人数</li></ul>
③ 他の医療機関に所属する医療関係職種に対する研修の実施状況
<ul style="list-style-type: none"><li>・研修の主な内容</li><li>・研修の期間・実施回数</li><li>・研修の参加人数</li></ul>

(注) 1 高度の医療に関する研修について、前年度実績を記載すること。

(注) 2 「③他の医療機関に所属する医療関係職種に対する研修の実施状況」については、医療法施行規則第六条の四第四項の規定に基づき、がん、循環器疾患等の疾患に関し、高度かつ専門的な医療を提供する特定機能病院についてのみ記載すること。また、日本全国の医療機関に勤務する医療従事者を対象として実施した専門的な研修を記載すること。

## (様式第 5)

## 診療並びに病院の管理及び運営に関する諸記録の管理方法に関する書類

計画・現状の別	1. 計画 ②. 現状
管理責任者氏名	院長 汲田 伸一郎
管理担当者氏名	各部署長

		保管場所	管理方法
診療に関する諸記録	規則第二十二條の三第二項に掲げる事項	病院日誌	庶務課
		各科診療日誌	電子カルテ内サーバー
		処方せん	電子カルテ内サーバー
		手術記録	電子カルテ内サーバー
		看護記録	電子カルテ内サーバー
		検査所見記録	電子カルテ内サーバー
		エックス線写真	電子カルテ内サーバー
		紹介状	電子カルテ内サーバー
		退院した患者に係る入院期間中の診療経過の要約及び入院診療計画書	電子カルテ内サーバー
病院の管理及び運営に関する諸記録	規則第二十二條の三第三項に掲げる事項	従業者数を明らかにする帳簿	庶務課
		高度の医療の提供の実績	医事課
		高度の医療技術の開発及び評価の実績	庶務課
		高度の医療の研修の実績	各部署
		閲覧実績	庶務課
		紹介患者に対する医療提供の実績	電子カルテ内サーバー
	規則第一條の十一第一項に掲げる事項	入院患者数、外来患者及び調剤の数を明らかにする帳簿	庶務課、薬剤部
		医療に係る安全管理のための指針の整備状況	医療安全管理部
		医療に係る安全管理のための委員会の開催状況	医療安全管理部
		医療に係る安全管理のための職員研修の実施状況	医療安全管理部
		医療機関内における事故報告等の医療に係る安全の確保を目的とした改善のための方策の状況	医療安全管理部
			ファイル、PCによる保存管理

		保管場所	管理方法
病院の管理及び運営に関する諸記録	規則	院内感染対策のための指針の策定状況	感染制御室
	第一条	院内感染対策のための委員会の開催状況	感染制御室
	の	従業者に対する院内感染対策のための研修の実施状況	感染制御室
	十一	感染症の発生状況の報告その他の院内感染対策の推進を目的とした改善のための方策の実施状況	感染制御室
	第二	医薬品安全管理責任者の配置状況	薬剤部
	項	従業者に対する医薬品の安全使用のための研修の実施状況	薬剤部
	第一	医薬品の安全使用のための業務に関する手順書の作成及び当該手順書に基づく業務の実施状況	薬剤部
	号	医薬品の安全使用のために必要となる未承認等の医薬品の使用の情報その他の情報の収集その他の医薬品の安全使用を目的とした改善のための方策の実施状況	薬剤部
	から	医療機器安全管理責任者の配置状況	ME部
	第三	従業者に対する医療機器の安全使用のための研修の実施状況	ME部
	号	医療機器の保守点検に関する計画の策定及び保守点検の実施状況	ME部
	までに掲げる事項	医療機器の安全使用のために必要となる情報の収集その他の医療機器の安全使用を目的とした改善のための方策の実施状況	ME部

ファイル、PCによる  
保存管理

		保管場所	管理方法
病院の管理及び運営に関する諸記録	規則第九条の二十の二第一項第一号から第十三号まで及び第十五条の四各号に掲げる事項	医療安全管理責任者の配置状況	医療安全管理部
		専任の院内感染対策を行う者の配置状況	感染制御室
		医薬品安全管理責任者の業務実施状況	薬剤部
		医療を受ける者に対する説明に関する責任者の配置状況	医療安全管理部
		診療録等の管理に関する責任者の選任状況	診療録管理室
		医療安全管理部門の設置状況	医療安全管理部
		高難度新規医療技術の提供の適否等を決定する部門の状況	医療安全管理部
		未承認新規医薬品等の使用条件を定め、使用の適否等を決定する部門の状況	医療安全管理部
		監査委員会の設置状況	法人総務部、庶務課
		入院患者が死亡した場合等の医療安全管理部門への報告状況	医療安全管理部
		他の特定機能病院の管理者と連携した相互立入り及び技術的助言の実施状況	医療安全管理部
		当該病院内に患者からの安全管理に係る相談に適切に応じる体制の確保状況	医療安全管理部
		医療安全管理の適正な実施に疑義が生じた場合等の情報提供を受け付けるための窓口の状況	庶務課
		職員研修の実施状況	庶務課
		管理者、医療安全管理責任者、医薬品安全管理責任者及び医療機器安全管理責任者のための研修の実施状況	庶務課
		管理者が有する権限に関する状況	法人本部総務部
管理者の業務が法令に適合することを確保するための体制の整備状況	法人本部監査室		
開設者又は理事会等による病院の業務の監督に係る体制の整備状況	法人秘書室		

(注)「診療に関する諸記録」欄には、個々の記録について記入する必要はなく、全体としての管理方法の概略を記入すること。また、診療録を病院外に持ち出す際に係る取扱いについても記載すること。



(様式第 6)

病院の管理及び運営に関する諸記録の閲覧方法に関する書類

○病院の管理及び運営に関する諸記録の閲覧方法

計画・現状の別	1. 計画	②. 現状	
閲覧責任者氏名	院長 汲田 伸一郎		
閲覧担当者氏名	庶務課 課長 樋口 憲二		
閲覧の求めに応じる場所	閲覧室		
閲覧の手続の概要			
閲覧についての書類を受取後、対応			

(注) 既に医療法施行規則第 9 条の 20 第 5 号の規定に合致する方法により記録を閲覧させている病院は現状について、その他の病院は計画について記載することとし、「計画・現状の別」欄の該当する番号に○印を付けること。

○病院の管理及び運営に関する諸記録の閲覧の実績

前年度の総閲覧件数		延	件
閲覧者別	医師	延	件
	歯科医師	延	件
	国	延	1 件
	地方公共団体	延	1 件

(注) 特定機能病院の名称の承認申請の場合には、必ずしも記入する必要はないこと。

規則第1条の11第1項各号に掲げる医療に係る安全管理のための体制の確保に係る措置

① 医療に係る安全管理のための指針の整備状況	(有)・無
<p>・ 指針の主な内容：</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 医療安全管理に関する基本的考え方</li> <li>2. 医療に係る安全管理の組織に関する基本的事項</li> <li>3. 医療安全管理のための職員研修に関する基本的事項</li> <li>4. 事故報告等の医療に係る安全の確保を目的とした改善のための方策に関する 基本方針</li> <li>5. 医療事故発生時の対応に関する基本方針</li> <li>6. 当院と患者との間の情報の共有に関する基本方針</li> <li>7. 患者からの相談への対応に関する基本方針</li> <li>8. 高難度新規医療技術等を用いた医療の提供</li> <li>9. 未承認新規医薬品等を用いた医療の提供</li> <li>10. その他医療安全の推進のために必要な基本方針</li> </ol>	
② 医療に係る安全管理のための委員会の設置及び業務の状況	
<p>・ 設置の有無 ( (有)・無 )</p> <p>・ 開催状況：年 12 回</p> <p>・ 活動の主な内容：</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 医療の安全管理の総括に関すること</li> <li>2. 医療安全管理指針及び医療安全マニュアルの策定及び変更に関すること</li> <li>3. 重大な医療事故等に関する原因究明のための調査及び分析に関すること</li> <li>4. 前号の分析結果を活用した医療事故等防止方策の立案及び実施並びに従業者への周知に関すること</li> <li>5. 医療事故等防止方策の実施状況の調査及び見直しに関すること</li> <li>6. 死亡退院事例報告の実施状況の確認及び確認結果の院長への報告並びに従業者への研修及び指導に関すること</li> <li>7. 医療法（昭和23年法律第205号）第6条の11に規定する医療事故調査及び医療事故調査等支援団体に関すること</li> <li>8. 高難度新規医療技術等を用いた医療の提供</li> <li>9. 未承認新規医薬品等を用いた医療の提供</li> <li>10. その他医療安全管理に関すること</li> </ol>	

③ 医療に係る安全管理のための職員研修の実施状況	年3回
<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 研修の内容（すべて）：</li> <li>1. 令和元年度 第1回 医療安全管理研修講演会 開催日：令和元年6月24日 演 題：医療安全の重要性を再確認する 講 師：上尾中央総合病院 情報管理特任副院長 長谷川 剛</li> <li>2. 令和元年度 個人情報保護研修講演会 開催日：令和元年11月25日 演 題：知っておくべき個人情報保護～事例を参考にして～ 講 師：日本医科大学顧問弁護士 仁邦法律事務所 桑原 博道</li> <li>3. 令和元年度 第2回 医療安全管理研修講演会 開催日：令和2年1月27日 演 題：コミュニケーションが困難であった事例から学ぶリスクマネージメント 講 師：浜松医科大学医学部医療法学 教授（弁護士） 大磯 義一郎</li> </ul>	
④ 医療機関内における事故報告等の医療に係る安全の確保を目的とした改善のための方策の実施状況	
<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 医療機関内における事故報告等の整備（<input checked="" type="radio"/>有・無）</li> <li>・ その他の改善のための方策の主な内容：</li> <li>1. 医療安全管理集中管理システム（セーフマスター）での管理</li> <li>2. 医療安全管理に関する規定（指針・ガイドライン・マニュアル）の改正</li> <li>3. 医療安全管理の手引きの改正・配布</li> <li>4. リスクマネージャ会議（月1回）における改善方策周知</li> <li>5. 院内リスクアナウンス（安全情報等）の周知確認登録 （電子カルテシステム画面を利用したポータルサイト、院内FAX）等</li> </ul>	

(注) 前年度の実績を記入すること。

規則第1条の11第2項第1号に掲げる院内感染対策のための体制の確保に係る措置

① 院内感染対策のための指針の策定状況	有・無
<p>・ 指針の主な内容：</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1) 院内感染対策に関する基本的考え方 <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 院内感染対策マニュアルの整備を実施している</li> </ul> </li> <li>2) 院内感染対策のための委員会その他の当該病院等の組織に関する基本的事項 <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 月1回の病院感染対策委員会・感染マネージャー会議を開催している</li> </ul> </li> <li>3) 院内感染対策のための従業者に対する研修に関する基本方針 <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 入職時の手指衛生等員に感染対策に関する研修の実施、年2回の院内感染対策に関する講演会の開催している</li> </ul> </li> <li>4) 感染症の発生状況の報告に関する基本方針 <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 発生時に報告書を作成、病院管理者、職員への発生と対応状況について報告している</li> </ul> </li> <li>5) 院内感染発生時の対応に関する基本方針 <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 発生時は速やかに関係部署、微生物検査室と連携し、感染対策を実施している</li> </ul> </li> <li>6) 患者等に対する当該指針の閲覧に関する基本方針 <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 病院ホームページ、院内掲示を通じ周知している</li> </ul> </li> <li>7) その他の当該病院等における院内感染対策の推進のために必要な基本方針 <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 私立医科大学病院感染対策協議会や地域医療機関と連携等、第三者の立場から評価を受ける機会を設けている。</li> </ul> </li> </ol>	
② 院内感染対策のための委員会の開催状況	年12回
<p>・ 活動の主な内容：</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1) 感染対策の強化、追加、改善に関する方針・対応策の検討、決定。</li> <li>2) サーベイランスデータのフィードバックと問題点に関する対応策の検討、決定。</li> <li>3) 感染防止ガイドライン、感染防止マニュアル、指針等の策定、改訂に関する検討、承認。</li> <li>4) 院内感染対策研修及び教育活動に関する実施計画の策定、検討、承認、実施後報告、評価。</li> <li>5) 上記1～4に関する周知・徹底、ならびに周知・徹底方法に関する対応策の協議・決定。</li> <li>6) アウトブレイク等院内発生事象に関する報告、および対策の協議・決定(臨時会議開催等)。</li> <li>7) 感染制御室業務、感染制御チーム活動、抗菌薬適正使用支援チームおよび感染管理マネージャー活動に関する報告、周知、助言、支援。</li> </ol>	
③ 従業者に対する院内感染対策のための研修の実施状況	年2回
<p>・ 研修の内容(すべて)：</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1) 新人職者(研修医、専攻医・専修医を含む全職種)研修 <ul style="list-style-type: none"> <li>● 講義：感染管理概論・当院の感染管理組織・医療関連感染防止・職業曝露防止・標準予防策・経路別予防策・抗菌薬適正使用・AMR対策、教育動画視聴</li> <li>● 感染防止技術の実技演習；手指衛生、個人防具の着脱、鋭利器材の使用方法和廃棄方法</li> </ul> </li> </ol>	

- 2) 院内感染対策研修講演会（全従業者を対象として）
  - 2020年7月17日：「東京2020に向けたグローバル時代の感染症対策」
  - 2020年2月5日：「職業感染防止」（針刺し切創、皮膚・粘膜曝露について）
- 3) 感染症レクチャー（全従業者を対象として）
  - 2019年10月9日：抗菌薬が足りない！（今一度、あなたの抗菌薬使用を考えてみよう）
  - 2019年11月13日：あなたの知らない「ブツブツ」の世界（内科医が知っておきたい「ブツブツ＝発疹」について専門家が語ります）
- 4) 中途採用者、異動者、復帰者を対象とした感染管理研修（採用時）
- 5) 部門・職種別研修（講義および感染防止実技演習）
  - ① 委託（清掃業者等）
  - ② 臨床工学技士
  - ③ 集中治療部門（外科ICU/HCU、高度救命救急センター）医師
  - ④ リハビリテーション部門
  - ⑤ 看護部感染防止リンクナース
  - ⑥ 研修医（抗菌薬適正使用等）

④ 感染症の発生状況の報告その他の院内感染対策の推進を目的とした改善のための方策の状況

- ・ 病院における発生状況の報告等の整備 （  有 ・ 無 ）
  - ・ その他の改善のための方策の主な内容：
- 1) 薬剤耐性菌及び感染症の早期発見と対応、感染防止対策と報告
    - 私立医科大学病院感染対策協議会、管轄保健所、東京都福祉保健局等関連機関への相談・報告、有事事象時の改善支援依頼（平成31年度は依頼事項なし）
    - 薬剤耐性菌積極的監視培養検査の継続実施（救命救急・集中治療部門、NICU・GCU、海外で医療を受けたことのある入院予定患者等）。
    - 薬剤耐性菌分離時、感染管理部門と当該部署、医師、その他職種間の情報共有（カンファレンス開催および感染管理部門のラウンドとフィードバック）委員会報告。
    - 薬剤耐性菌分離時、感染制御チームラウンドと指導、介入。
    - ICTラウンド時の微生物検査週報共有（毎週）。
    - マニュアルの作成、随時改訂。
    - 抗菌薬適正支援チームによる対象症例ラウンド（毎週）。
    - 院内アンチバイオグラム作成と更新と院内公開、感染症リーフレットの作成・配布。
  - 2) 周知、業務改善
    - 院内研修や感染対策、その他感染管理に係る文書通知
    - 情報の周知・徹底に係る電子カルテポータルサイト掲載および感染管理マネージャーの活用。
    - 感染症、薬剤耐性菌分離患者指定管理病室の運用。
      - 関連部署における陰圧室使用状況の情報共有（入院、外来）
      - 集中治療部門管理軟性内視鏡洗浄・消毒の中央化。

3) 感染対策の周知と情報共有

- 手指消毒サーベイランス：使用量調査および直接観察法による手指衛生遵守率測定と情報共有・フィードバック、私立医科大学病院感染対策協議会専門職部会ベンチマークとの比較。
- 感染制御チームラウンド（薬剤耐性菌対策、標準予防策・接触予防策、環境整備等感染防止チェックリスト）の実施（毎週）と結果のフィードバック、改善策提案、評価、当該部署からの改善報告。
- 感染制御室、感染制御チーム合同会議（12回/年）の実施。

(注) 前年度の実績を記入すること。

規則第1条の11第2項第2号に掲げる医薬品に係る安全管理のための体制の確保に係る措置

① 医薬品安全管理責任者の配置状況	有・無
② 従業者に対する医薬品の安全使用のための研修の実施状況	年1回
<ul style="list-style-type: none"> <li>研修の主な内容：医薬品の安全使用のための研修（最近の医薬品関連の事故、事件、薬剤部からの医薬品安全性情報、日本医療評価機構からの、医薬品に関する安全性情報）</li> </ul>	
③ 医薬品の安全使用のための業務に関する手順書の作成及び当該手順書に基づく業務の実施状況	
<ul style="list-style-type: none"> <li>手順書の作成（有・無）</li> <li>手順書の内訳に基づく業務の主な内容：業務の主な内容：年2回（3-9月）薬剤部、病棟、外来、医局長、薬事委員に対して、その実施状況についてチェックリストを用いて確認。</li> </ul>	
④ 医薬品の安全使用のために必要となる未承認等の医薬品の使用の情報その他の情報の収集その他の医薬品の安全使用を目的とした改善のための方策の実施状況	
<ul style="list-style-type: none"> <li>医薬品に係る情報の収集の整備（有・無）</li> <li>未承認等の医薬品の具体的な使用事例（あれば）：なし</li> <li>その他の改善のための方策の主な内容： 薬品情報室が厚生労働省HP、PMDA、メーカー各社HP、製造販売業者HP、学術誌にて情報を収集している。得られた医薬品の情報のうち必要なものについて医薬品を取り扱う職員に対して以下の方法にて周知している。 部長会、医長会（院内会議）での周知。電子カルテの掲示板機能を利用しての周知。医薬品情報（毎月）、薬剤部ニュース（随時）を作成し、各部署に配布することによる周知。</li> </ul>	

(注) 前年度の実績を記入すること。

規則第1条の11第2項第3号に掲げる医療機器に係る安全管理のための体制の確保に係る措置

① 医療機器安全管理責任者の配置状況	① 有・無
② 従業者に対する医療機器の安全使用のための研修の実施状況  ・ 研修の主な内容： 1) 特定機能病院における定期研修 2019年4月9日 血液浄化 2019年4月12日 人工呼吸器・除細動器 2019年6月4日 補助循環(PCPS) 他  2) 新しい医療機器の導入時の研修 2019年7月17日 除細動器(TEC-8332) 2019年8月22日 冠動脈内圧測定器(XPRESS) 2019年9月12日 補助循環装置(CARDIOHELP) 他  3) その他必要に応じた研修 2019年4月25日 一酸化窒素ガス管理システム 2019年8月8日 呼吸器(SiPAP) 2019年11月27日 着用型除細動器 他	年52回
③ 医療機器の保守点検に関する計画の策定及び保守点検の実施状況  ・ 医療機器に係る計画の策定 ( ① 有・無 ) ・ 機器ごとの保守点検の主な内容： <保育器> 策定日：2019年3月 実施予定日：4月、7月、10月、1月 実施日：4月、7月、10月、1月 <除細動器> 策定日：2019年3月 実施予定日：5月、8月、11月、2月 実施日：5月、8月、11月、2月	
④ 医療機器の安全使用のために必要となる未承認等の医療機器の使用の状況その他の情報の収集 その他の医療機器の安全使用を目的とした改善のための方策の実施状況  ・ 医療機器に係る情報の収集の整備 ( ① 有・無 ) ・ 未承認等の医療機器の具体的な使用事例(あれば)：なし ・ その他の改善のための方策の主な内容： PMDA、JCQHC等から発信される医療安全情報、医療機器製造および販売業者より発信される安全使用のための情報を収集し保管と、医療機器安全管理研修での周知と報告	

(注) 前年度の実績を記入すること。



規則第9条の20の2第1項第1号から第13号に掲げる事項の実施状況

① 医療安全管理責任者の配置状況	○有・無
<p>・責任者の資格 (医師・歯科医師)                  ・医療安全管理責任者による医療安全管理部門、医療安全管理委員会、医薬品安全管理責任者及び医療機器安全管理責任者の統括状況</p> <p>医療安全管理責任者は、医療安全管理部、医療に係る安全管理のための委員会、医薬品安全管理責任者、医療機器安全管理責任者、医療放射線安全管理責任者を統括</p>	
② 専任の院内感染対策を行う者の配置状況	○有 (1名) ・無
<p>③ 医薬品安全管理責任者の業務実施状況</p> <p>・医薬品に関する情報の整理・周知に関する業務の状況</p> <p>添付文書、製造販売業者、行政・PMDA、学術誌などから情報を収集し、医薬品情報や薬剤部ニュースを作成し、部長会、医長会、医局、病棟などに配布し、電子カルテのポータルサイトでも確認できるようにしている。安全性情報が出た際には、前述の各媒体で周知するとともに、該当医薬品を使用している患者では、主治医へ連絡を行う。医薬品安全管理責任者はこれらの業務を薬剤部カンファレンス、日誌等で定期的に確認している。また、部長会等で医薬品情報に関するプレゼンテーションを行なっている。</p> <p>・未承認等の医薬品の使用に係る必要な業務の実施状況</p> <p>未承認新規医薬品等の使用状況の把握等を適切に実施するための担当者を薬剤部病棟部門長とさだめ、病棟薬剤師が実施している。未承認新規医薬品等の使用予定の情報が薬剤部に入った場合には、担当医師に未承認新規医薬品等を用いた医療の実施に関する申請受付および審査は、医療安全管理部(未承認新規医薬品等管理室)で行なっている旨、情報提供を行なっている。また、禁忌薬や適応外使用に関しては、担当医師に倫理委員会での審査が必要な旨、情報提供を行なっている。薬剤名、使用目的、使用する診療科、関連するエビデンスの確認等の情報収集を行っている。</p> <p>・担当者の指名の有無 (○有・無)</p> <p>・担当者の所属・職種：</p> <p>(所属：薬剤部， 職種 薬剤師伊勢雄也) (所属：薬剤部， 職種 薬剤師稲毛俊介)</p> <p>(所属：薬剤部， 職種 薬剤師林太祐 ) (所属：薬剤部， 職種 薬剤師岸田悦子)</p> <p>(所属： ， 職種 ) (所属： ， 職種 )</p> <p>(所属： ， 職種 ) (所属： ， 職種 )</p>	

④ 医療を受ける者に対する説明に関する責任者の配置状況	有・無
<p>・医療の担い手が説明を行う際の同席者、標準的な説明内容その他説明の実施に必要な方法に関する規程の作成の有無 (有・無)</p> <p>・説明等の実施に必要な方法に関する規程に定められた事項の遵守状況の確認、及び指導の主な内容：</p> <p>1. ガイドラインの目的</p> <p>2. インフォームド・コンセントに対する姿勢</p> <p>3. 原則</p> <p>4. インフォームド・コンセントを行うべきとき、書式、同意書書式などの細目について</p> <p>5. インフォームド・コンセントガイドライン細則</p> <p>各診療科のカンファレンス実施時に、上級医によりインフォームド・コンセントが適切に行われているかを確認している。</p>	

⑤ 診療録等の管理に関する責任者の選任状況	有・無
<p>・診療録等の記載内容の確認、及び指導の主な内容：</p> <p>診療録等の適正な記載を目的として診療録等の監査を行う。</p> <p>なお、記載内容が不十分と思われる場合は適正な指導を行う。</p>	

⑥ 医療安全管理部門の設置状況	有・無
<p>・所属職員：専従（15）名、専任（3）名、兼任（13）名</p> <p>うち医師：専従（2）名、専任（2）名、兼任（5）名</p> <p>うち薬剤師：専従（2）名、専任（0）名、兼任（1）名</p> <p>うち看護師：専従（4）名、専任（0）名、兼任（3）名</p> <p>（注）報告書を提出する年度の10月1日現在の員数を記入すること</p> <p>・活動の主な内容：</p> <p>1. 医療に係る安全管理のための指針の整備に関すること。</p> <p>2. 医療に係る安全管理のための委員会の開催に関すること。</p> <p>3. 医療に係る安全管理のための職員研修の実施に関すること。</p> <p>4. 事故報告等の医療に係る安全の確保を目的とした改善のための方策の策定に関すること。</p> <p>5. その他医療に係る安全管理のための事務一般に関すること。</p>	

6. 院内の環境・設備並びに職員の接遇に関する意見や苦情の対応に関すること。
7. 医療に係る安全管理に関する相談の対応に関すること。
8. 医療事故の渉外に関すること。
9. 個人情報の適正管理に関すること。
10. 個人情報の紛失・盗難・漏洩の防止に関すること。
11. 個人情報の紛失・盗難・漏洩時の対応に関すること。

※ 平成二八年改正省令附則第四条第一項及び第二項の規定の適用を受ける場合には、専任の医療に係る安全管理を行う者が基準を満たしていることについて説明すること。

※ 医療安全管理委員会において定める医療安全に資する診療内容及び従事者の医療安全の認識についての平時からのモニタリングの具体例についても記載すること。

⑦ 高難度新規医療技術の提供の適否等を決定する部門の状況

・前年度の高難度新規医療技術を用いた医療の申請件数（3件）、及び許可件数（0件）

※申請は2段階としており、事前に申請したい技術の内容を審議し、候補患者が挙げられた時点で審査となるため、許可件数は0件となっている。

・高難度新規医療技術の提供の適否等を決定する部門の設置の有無（有 無）

・高難度新規医療技術を用いた医療を提供する場合に、従業者が遵守すべき事項及び高難度新規医療技術の提供の適否等を決定する部門が確認すべき事項等を定めた規程の作成の有無（有・無）

・活動の主な内容：

1. 申請手続きに関すること（各診療科から提出される申請書類のチェックなど）
2. 医療提供の適否決定に関すること（委員会での意見を確認の上、適否について決定し、提供にあたっての条件等を定める）
3. 医療提供後の確認に関すること（適否の決定後、提供を認めた医療の報告対象の全症例について適切に業務が実施されたかどうか確認して院長報告、必要に応じて実施体制の見直しを行う）

・規程に定められた事項の遵守状況の確認の有無（有・無）

・高難度新規医療技術評価委員会の設置の有無（有・無）

⑧ 未承認新規医薬品等の使用条件を定め、使用の適否等を決定する部門の状況

- ・前年度の未承認新規医薬品等を用いた医療の申請件数（1件）、及び許可件数（1件）
- ・未承認新規医薬品等の使用条件を定め、使用の適否等を決定する部門の設置の有無（有  
無）
- ・未承認新規医薬品等を用いた医療を提供する場合に、従業者が遵守すべき事項及び未承認新規医薬品等の使用条件を定め使用の適否等を決定する部門が確認すべき事項等を定めた規程の作成の有無（有・無）
- ・活動の主な内容：
  1. 申請手続きに関すること（各診療科から提出される申請書類のチェックなど）
  2. 医療提供の適否決定に関すること（委員会での意見を確認の上、適否について決定し、提供にあたっての条件等を定める）
  3. 医療提供後の確認に関すること（適否の決定後、提供を認めた医療の報告対象の全症例について適切に業務が実施されたかどうか確認して院長報告、必要に応じて実施体制の見直しを行う）
- ・規程に定められた事項の遵守状況の確認の有無（有・無）
- ・未承認新規医薬品等評価委員会の設置の有無（有・無）

⑨ 入院患者が死亡した場合などの医療安全管理部門への報告状況

- ・入院患者が死亡した場合の医療安全管理部門への報告状況：年 655 件
- ・上記に掲げる場合以外の場合であって、通常の経過では必要がない処置又は治療が必要になったものとして特定機能病院の管理者が定める水準以上の事象が発生したとき当該事象の発生の事実及び発生前の状況に関する医療安全管理部門への報告状況：年 344 件
- ・上記に関する医療安全管理委員会の活動の主な内容

医療安全管理委員会は、上記報告が適切に行われているかを確認し、その結果を院長に報告している。仮に報告が不十分であれば、必要な指導などを行っている。

⑩ 他の特定機能病院等の管理者と連携した相互立入り及び技術的助言の実施状況

- ・他の特定機能病院等への立入り（有（病院名：北里大学病院）・無）
- ・他の特定機能病院等からの立入り受入れ（有（病院名：北里大学病院）・無）
- ・技術的助言の実施状況

医薬品等の安全使用体制の状況（医薬品安全管理責任者の業務等）

病棟における抗精神薬の管理について、定数配置の向精神薬は鍵のかかる金庫に保管しているというものでしたが、定時払い出しや臨時請求された向精神薬は金庫に保管されないこともあると伺い

ました。病棟の臨時請求の向精神薬であっても出納を管理し、金庫に保管した方が適正な管理になると考えます。

・他の特定機能病院等への立入り（（病院名：国立国際医療研究センター病院）・無）

・他の特定機能病院等からの立入り受入れ（（病院名：国立国際医療研究センター病院）・無）

・技術的助言の実施状況

監査委員会の業務の結果及び監査 委員会からの指摘への対応状況

監査委員会の実施に関して、今後一層の充実を図っていかれるとのことで、良い形を検討いただきたい。監査委員会で指摘されることがあれば、研修などで職員へ周知することにも留意いただきたい。

⑪ 当該病院内に患者からの安全管理に係る相談に適切に応じる体制の確保状況

・体制の確保状況

（設置状況等）

・窓口の名称：患者相談窓口

・患者相談窓口の設置：平成15年4月1日

・責任者の氏名及び職種：医療安全管理部 部長（医師）

・対応部署：医療安全管理部 患者相談室 ・ 患者支援センター

・相談に応じる時間帯：月～金 午前9時より午後5時 土 午前9時より午後4時

・規約の整備状況：日本医科大学付属病院 患者相談窓口運営細則（平成17年4月1日施行）

（活動状況）

・患者への明示方法：院内3ヶ所 他に明示および明記している。

（本館2階正面玄関入口・東館1階玄関入口・本館1階患者支援センター入口・入院案内パンフレット・ホームページ）

・窓口以外の苦情相談の受付 電話相談・投書箱設置（11か所）

・相談により患者等が不利益をうけないよう、プライバシーに留意し、個室対応をしている。

⑫ 職員研修の実施状況

・研修の実施状況

診療録管理、未承認新規医薬品等を用いた医療に関する研修会 令和元年11月18日

講師 診療録管理室 室長 八島 正明

医療安全管理部 未承認新規医薬品等管理室 室長 伊勢 雄也

（注）前年度の実績を記載すること（⑥の医師等の所属職員の配置状況については提出年度の10月1

日の員数を記入すること)

⑬ 管理者、医療安全管理責任者、医薬品安全管理責任者及び医療機器安全管理責任者のための研修の実施状況

・研修の実施状況

管理者

- ① 日本医療機能評価機構 2019年度特定機能病院管理者研修  
2019年10月11日

医療安全管理責任者

- ① 日本医療機能評価機構 2019年度特定機能病院管理者研修  
2019年10月27、28日
- ② 日本医療機能評価機構 医療クオリティマネジャー養成セミナー  
2019年12月13、14日、1月22、23日

医薬品安全管理責任者

- ① 日本医療機能評価機構 2019年度特定機能病院管理者研修  
2019年10月27、28日

医療機器安全管理責任者

- ① 日本医療機能評価機構 2019年度特定機能病院管理者研修  
2019年10月11日

(注) 前年度の実績を記載すること (⑥の医師等の所属職員の配置状況については提出年度の10月1日の員数を記入すること)

規則第7条の2第1項各号に掲げる管理者の資質及び能力に関する基準

<p>管理者に必要な資質及び能力に関する基準</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>基準の主な内容                     <p>日本医科大学付属病院長選任規程 令和元年11月1日施行</p> <p>任期、選定の基準、候補者選考の事由及び時期、選考委員会の設置、構成</p> </li> <li>基準に係る内部規程の公表の有無 ( <input checked="" type="radio"/> ・ 無 )</li> <li>公表の方法                     <p>ホームページに掲載</p> </li> </ul>
--

規則第7条の3第1項各号に掲げる管理者の選任を行う委員会の設置及び運営状況

前年度における管理者の選考の実施の有無	<input checked="" type="radio"/> ・ 無
<ul style="list-style-type: none"> <li>選考を実施した場合、委員会の設置の有無 ( <input checked="" type="radio"/> ・ 無 )</li> <li>選考を実施した場合、委員名簿、委員の経歴及び選定理由の公表の有無 ( <input checked="" type="radio"/> ・ 無 )</li> <li>選考を実施した場合、管理者の選考結果、選考過程及び選考理由の公表の有無 ( <input checked="" type="radio"/> ・ 無 )</li> <li>公表の方法                     <p>ホームページに掲載</p> </li> </ul>	

管理者の選任を行う委員会の委員名簿及び選定理由

氏名	所属	委員長 (○を付す)	選定理由	特別の関係
鈴木 秀典	学校法人日本医科大学 常務理事	○	理事会において選任された理事	<input checked="" type="radio"/> ・ 無
弦間 昭彦	学校法人日本医科大学 常務理事		理事会において選任された理事	<input checked="" type="radio"/> ・ 無
清水 一政	学校法人日本医科大学 理事		理事会において選任された理事	<input checked="" type="radio"/> ・ 無
松本 洋一郎	東京理科大学 学長		理事長が本法人と特別の関係がない者の中から推薦し、理事会において承認された者	有 ・ <input checked="" type="radio"/>
三木 保	東京医科大学病院 院長		理事長が本法人と特別の関係がない者の中から推薦し、理事会において承認された者	有 ・ <input checked="" type="radio"/>

規則第9条の2 3第1項及び第2項に掲げる病院の管理及び運営を行うための合議体の設置及び運営状況

合議体の設置の有無	(有)・無
<ul style="list-style-type: none"> <li>・合議体の主要な審議内容            病院の運営方針、中期計画、予算及び決算に関する事項            その他病院の管理運営に関する事項            人事異動報告、医療収入報告、医薬品情報報告、各種委員会における審議内容の報告            その他院長が必要と認める事項</li> <li>・審議の概要の従業者への周知状況            各部署長が出席し、審議内容を職員へ周知している。</li> <li>・合議体に係る内部規程の公表の有無（有 (無)）</li> <li>・公表の方法</li>   <li>・外部有識者からの意見聴取の有無（有 (無)）</li> </ul>	

合議体の委員名簿

氏名	委員長 (○を付す)	職種	役職
汲田 伸一郎	○	医師	院長
近藤 幸尋		医師	副院長
吉田 寛		医師	副院長
清水 渉		医師	副院長
石井 庸介		医師	副院長
鈴木 智恵子		看護師	副院長
安武 正弘		医師	総合診療科部長
木村 和美		医師	脳神経内科部長
酒井 行直		医師	腎臓内科部長
桑名 正隆		医師	リウマチ・膠原病内科部長
猪口 孝一		医師	血液内科部長
杉原 仁		医師	糖尿病・内分泌代謝内科部長
岩切 勝彦		医師	消化器・肝臓内科部長
清家 正博		医師	呼吸器内科部長
久保田 馨		医師	化学療法科部長
大久保 善朗		医師	精神神経科部長
伊藤 保彦		医師	小児科部長
佐伯 秀久		医師	皮膚科部長
岸川 洋昭		医師	麻酔科・ペインクリニック部長
鈴木 規仁		医師	緩和ケア科部長



前林 勝也		医師	放射線治療科部長
武井 寛幸		医師	乳腺科部長
杉谷 巖		医師	内分泌外科部長
白田 実男		医師	呼吸器外科部長
森田 明夫		医師	脳神経外科部長
高橋 浩		医師	眼科部長
大久保 公裕		医師	耳鼻咽喉科・頭頸部外科部長
竹下 俊行		医師	女性診療科・産科部長
眞島 任史		医師	整形外科・リウマチ外科部長
小川 令		医師	形成外科・美容外科・再建外科部長
新井 正徳		医師	救急診療科部長
横堀 将司		医師	救命救急科部長
廣田 薫		医師	東洋医学科部長
山田 岳史		医師	遺伝診療科部長
眞々田 裕宏		医師	がん診療科部長
大橋 隆治		医師	病理診断科部長
市場 晋吾		医師	外科系集中治療科部長
久野 彰子		歯科医師	口腔科（周術期）部長
寺崎 泰弘		医師	病理部部長
柏木 哲也		医師	血液浄化療法センター室長
貝瀬 満		医師	内視鏡センター室長
遠藤 康実		医師	臨床検査部部長
宮本 正章		医師	高気圧酸素治療室室長
山口 博樹		医師	輸血部部長
大塚 俊昭		医師	臨床研究総合センターセンター長
林 宏光		医師	医療情報センターセンター長
八島 正明		医師	保険診療指導部部長
平間 章郎		医師	腎クリニック所長
藤田 和恵		医師	医療安全管理部感染制御室室長
伊勢 雄也		薬剤師	薬剤部部長
山本 臣生		事務職員	事務部部長

## 規則第15条の4第1項第1号に掲げる管理者が有する権限に関する状況

### 管理者が有する病院の管理及び運営に必要な権限

- ・ 管理者が有する権限に係る内部規程の公表の有無（有・~~無~~）
- ・ 公表の方法

- ・ 規程の主な内容

管理者は、病院の業務を統括し、所属職員を指揮監督すると共に、病院全般の円滑な運営に当たる。  
予算承認について、支出に拘わる案件の予算承認限度額を定める。

- ・ 管理者をサポートする体制（副院長、院長補佐、企画スタッフ等）及び当該職員の役割

【職名】副院長  
手術室運営に関する事、収支改善に関する事、医療経費削減に関する事、  
医療連携に関する事、医師の負担軽減に関する事、臨床研修センター運営に関する事

医療安全・感染対策に関する事、経営戦略に関する事、看護部門に関する事、  
患者安全管理に関する事、病棟稼働率・平均在院日数等の効率化に関する事

- ・ 病院のマネジメントを担う人員についての人事・研修の状況

日本私立医科大学協会病院事務長会議、病院庶務研究会等に出席している。

規則第15条の4第1項第2号に掲げる医療の安全の確保に関する監査委員会に関する状況

監査委員会の設置状況	(有)・無
<p>・ 監査委員会の開催状況：年2回</p> <p>・ 活動の主な内容：</p> <p>(1) 医療安全管理責任者、医療安全管理部門、医療安全管理委員会、医薬品安全管理責任者、医療機器安全管理責任者等の業務の状況に応じて自ら確認を実施する。</p> <p>(2) 必要に応じ、理事長又は院長に対し、医療に係る安全管理についての是正措置を講じるよう意見を表明する。</p> <p>(3) 上記業務について、その結果を公表する。</p> <p>・ 監査委員会の業務実施結果の公表の有無 ( (有)・無 )</p> <p>・ 委員名簿の公表の有無 ( (有)・無 )</p> <p>・ 委員の選定理由の公表の有無 ( (有)・無 )</p> <p>・ 監査委員会に係る内部規程の公表の有無 ( (有)・無 )</p> <p>・ 公表の方法：</p> <p>学校法人のホームページにて公表</p>	

監査委員会の委員名簿及び選定理由 (注)

氏名	所属	委員長 (○を付す)	選定理由	利害関係	委員の要件 該当状況
長島 隆	東洋大学	○	利害関係のない学識経験者	有・無 (無)	1
小泉 博明	文京学院大学		利害関係のない学識経験者	有・無 (無)	1
豊田 郁子	NPO 法人「架け橋」		利害関係のない医療従事者以外の者	有・無 (無)	2
近藤 幸尋	日本医科大学付属病院		副院長・泌尿器科部長	(有)・無	3
				有・無	
				有・無	

- (注) 「委員の要件該当状況」の欄は、次の1～3のいずれかを記載すること。
1. 医療に係る安全管理又は法律に関する識見を有する者その他の学識経験を有する者
  2. 医療を受ける者その他の医療従事者以外の者 (1. に掲げる者を除く。)
  3. その他

規則第15条の4第1項第3号イに掲げる管理者の業務の執行が法令に適合することを確保するための体制の整備に係る措置

管理者の業務が法令に適合することを確保するための体制の整備状況

・体制の整備状況及び活動内容

定期的（年1回）に管理者による病院の管理状況を確認する。

必要に応じて臨時に確認を実施する。

・ 専門部署の設置の有無（有・無）

・ 内部規程の整備の有無（有・無）

・ 内部規程の公表の有無（有・無）

・ 公表の方法

規則第15条の4第1項第3号口に掲げる開設者による業務の監督に係る体制の整備に係る措置

開設者又は理事会等による病院の業務の監督に係る体制の状況			
<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 病院の管理運営状況を監督する会議体の体制及び運営状況 原則として毎月1回理事長が招集し、学校法人の業務を決し、理事の職務の執行を監督する。</li>   <li>・ 会議体の実施状況（ 年11回 ）</li> <li>・ 会議体への管理者の参画の有無および回数（ <input checked="" type="radio"/>有・無 ）（ 年11回 ）</li> <li>・ 会議体に係る内部規程の公表の有無（ 有 <input checked="" type="radio"/>無 ）</li> <li>・ 公表の方法</li> </ul>			
病院の管理運営状況を監督する会議体の名称：			
会議体の委員名簿			
氏名	所属	委員長 (○を付す)	利害関係
			有・無
			有・無
			有・無
			有・無

(注) 会議体の名称及び委員名簿は理事会等とは別に会議体を設置した場合に記載すること。

規則第15条の4第1項第4号に掲げる医療安全管理の適正な実施に疑義が生じた場合等の情報提供を受け付ける窓口の状況

窓口の状況

- ・ 情報提供を受け付けるための窓口の設置の有無 (  有 ・ 無 )
- ・ 通報件数 (年 0 件)
- ・ 窓口に提供する情報の範囲、情報提供を行った個人を識別することができないようにするための方策その他窓口の設置に関する必要な定めの有無 (  有 ・ 無 )
- ・ 窓口及びその使用方法についての従業者への周知の有無 (  有 ・ 無 )
- ・ 周知の方法  
ホームページを用いて公益通報・相談窓口のメールアドレス等の連絡先を恒常的に職員に対して周知。